

答 申 書

平成 17 年 6 月 27 日

山梨県高等学校入学者選抜制度審議会

目 次

はじめに	1
通学区域のあり方について	
1 通学区域の経緯及び現状	2
2 通学区域検討の方向	6
3 通学区域拡大の程度による比較検討	6
4 改善の方向	9
小学区・総合選抜制度のあり方について	
1 小学区・総合選抜制度の導入の経緯及び現状	10
2 改善の方向	13
入学者選抜制度等のあり方について	
1 入学者選抜制度の改善について	14
2 新たな入学者選抜制度の導入時期について	16
おわりに	17
資 料	

は じ め に

今日の社会は、全般にわたり激しい変化の中にあり、本県の高校教育を取り巻く環境も、中学卒業生のほぼ全員が高校へ進学する中で、生徒の興味・関心、能力・適性、進路等が非常に多様化してきており、生徒一人ひとりの個性、進路等に的確に対応することが求められている。

本県では平成8年に「山梨県高等学校整備新構想」を策定し、この構想に基づき、単位制普通科高校や総合学科高校など特色ある学校や学科・コースの創設など時代に対応する魅力ある高校づくりが推進されてきた。また、新しいタイプの高校の設置に伴い、全県からの志願が可能な通学区域となる高校も多くなってきている。

こうした中、「第2次新しい高校づくり課題研究協議会」では、「全日制普通科の通学区域は拡大する方向が望ましい」との報告が出されたところである。

本審議会は、平成16年7月20日、県教育委員会から次の項目について諮問を受けた。

- 1 通学区域のあり方について
- 2 小学区・総合選抜制度のあり方について
- 3 その他、現行の入学者選抜制度等について

諮問事項の内、通学区域及び小学区・総合選抜制度については、当審議会が昭和42年に答申した内容であり、現在に至るまで、本県の入学者選抜の根幹を成してきた制度である。審議会では「通学区域等に関するアンケート」調査や、「県民フォーラム」の実施により、広く県民からの意見を聴くとともに、9回に及ぶ審議において、精力的かつ慎重に論議を深めてきた。

そして、ここに成案を得たので答申を行うものである。

通学区域のあり方について

1 通学区域の経緯及び現状

本県の通学区域は、県立高校における教育の普及及びその機会均等、通学の便宜を図ること等を目的として、昭和25年に制度化された。

その後、生徒急増期を迎え、高度経済成長を背景とした高校進学率の大幅な上昇に伴い、受験競争や学校間格差への対応が課題となる中、昭和42年に「山梨県立高等学校通学区域等に関する規則」が制定され、改めて普通科高校の通学区域を設定するとともに、中学区に総合選抜制度が導入された。規則制定当時の通学区域は、普通科が11通学区域、通学区域について必要な調整を図るための複合地域が5地域とされ、専門学科は全県一学区とされた。

普通科高校の通学区域は、昭和53年に上野原高校が開校したことにより、大月学区から上野原学区が分離、創設され、さらに平成13年に都留高校が単位制普通科高校に改編されたことにより、都留高校の通学区域であった大月学区が複合地域とされるなどの改正が加えられてきた結果、現在では、11通学区域、6複合地域となっている。

審議会では通学区域の見直しの検討に当たって、次のような経緯や現状等を踏まえながら慎重に論議を行った。

(1) 特色ある高校づくりの推進

中学卒業生のほぼ全員が高校へ進学する状況の下で、生徒の特性や進路希望等も多様化する中、平成8年3月に「山梨県高等学校整備新構想」が策定された。同構想では「より柔軟に、より個性を」の視点から、個々の生徒の実態に合わせて、きめ細かな、かつ的確な対応を目指し、総合学科高校や単位制普通科高校の設置、普通科高校への専門教育学科の増設などが行われることとされた。

現在までに、総合学科高校は、甲府城西、北杜、富士北稜の3校、単位制普通科高校は、甲府西、日川、都留の3校が設置されている。これらの新しいタイプの高校や専門教育学科については、地理的条件や学校数等を考慮し、県下の中学生に広く公平に受検機会を与えることが適当であるため、通学区域は全県一学区とされている。

専門学科に加え総合学科や単位制普通科高校等も全県一学区となった結果、平成16年度の公立高校入学者選抜における募集定員の内、通学区域の適用を受けず全県より志願可能な定員の割合は、普通科の学区外制限定率分を含めて、52.5%となった。

(2) 通学区域をめぐる動き

平成9年の中央教育審議会第二次答申では、これまでの教育について「形式的な平等を求めるあまり、一人ひとりの能力・適性に応じた教育に必ずしも十分配慮がなされなかったという点については、改めなければならない」と指摘し、これからは、「子どもたちや保護者の主体的な選択を尊重」することを求めた。

また、平成12年には、行政改革推進本部の規制改革委員会から、公立高校の通学区域の弾力化も、教育の個性化・多様化を進める上で極めて重要である旨の報告がされた。

さらに、平成14年には、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下「地教行法」という。)の改正により、公立高校の通学区域の設定を規定していた条文が削除され、通学区域の設定等は各都道府県教育委員会の自主的な判断に委ねられることとなった。

これらの動きを踏まえ、本県では、平成15年7月に「第二次新しい高校づくり課題研究協議会」により、「通学区域については、拡大する方向が望ましい。」との報告がされたところである。

(3) 通学区域に関する県民の意識

審議会では、高校入学者選抜を控えている中学生及び入学者選抜を終えている全日制普通科の高校生とその保護者、中学・高校の教員を対象に「通学区域等に関するアンケート」(資料)を実施し、審議の際の検討資料とした。

なお、調査の実施時期は平成16年9月中旬、調査対象者数は、6,529人、回収数は6,256人、回収率は95.8%であった。

通学区域に関する調査項目の結果概要は次のとおりである。

普通科高校の通学区域について今後どのようにしていくべきか。

- | | |
|------------|-------|
| ・通学区域を設けない | 42.3% |
| ・通学区域を広くする | 27.8% |
| ・現状でよい | 18.4% |

通学区域を検討する際、考慮すべき点について。

・幅広い選択肢の確保	46.5%
・受検機会等の均等化	19.9%
・志願者の集中	15.4%
・通学時間等の負担	11.7%

調査結果からは、通学区域の何らかの見直しを望む意見が7割を超え、また、検討に当たっては、通学区域の見直しによる効果を期待する回答者数が影響を心配する回答者数を大きく上回る結果となった。

また、県教育委員会が毎年実施している高校改革アンケートにおいても、地教行法改正以降に設けられた「通学区域を設けない」を選択した者が、平成14年度30.1%、平成15年度31.7%と最も多い状況である。(資料)

また、審議会では県のホームページ上に「通学区域等に関する県民フォーラム」を開設し、幅広く県民の意見を求めるとともに提出された意見を集約し審議の参考とした。(資料)

(4) 通学区域に関する課題

学校の選択幅の拡大

本県の1通学区域当たりの全日制普通科高校数は平均1.5校であり、全国で最も低い状況である。

その中で、選択可能な高校数を地域ごとに見ると、小学区である地域の1校から、甲府市周辺部の複合地域における5校まで、大きく異なっている。

複数の学校から選択して進学できるようにすることや、居住する地域により選択できる学校の数が異ならないようにすることは、通学区域を検討する際の視点として、アンケート調査においても多くの県民が希望している事項である。

特色ある学校づくりの推進

全日制普通科高校における特色ある学校づくりについては、これまでも、専門教育学科の普通科高校への併設や、コース制の導入など

により、特定の分野に関心や適性を持った生徒に対応してきた。

普通科高校には、目的意識、学習意欲などの面で多様な生徒が入学していることから、生徒一人ひとりの特性や進路等に対して、さらに的確に対応することが必要であり、学校ごとに実態に応じた特色づくりの一層の推進が求められている。

現状の小学区制の中では、全日制普通科高校の特色づくりの推進に関して一定の制約があるという指摘があった。

少子化の進行

本県の中学卒業生の数は、平成元年の13,500人から減り続け、平成17年には9,200人、平成30年には8,000人と、今後も減少する傾向が見込まれている。(資料、)

特に、一部通学区域では、中学卒業生が平成17年と比較して平成30年には約半数に減少する見込みであり、生徒減少期においては、適正な学校規模により、学校全体の活力を保持する観点からも通学区域の検討が必要となっている。

市町村合併の進展

本県では市町村合併の動きが進展してきた結果、審議会が開催されるまでに1市2町が、また、審議会開催期間中には、従来の通学区域や複合地域をまたぐ合併等により、5市1町が新たに誕生した。

現在も、法定合併協議会が6地域に設けられ、合併に向けた準備が行われている。

この結果、市町村数は従来の64から最終的には29と、半数以下になる見込みである。

現行の通学区域は、高校への通学の利便性などにより、原則として行政区域を単位として設定されている。市町村合併後の新しい行政区域が通学区域をまたぐ事例も生じており、現行の通学区域を維持した場合は、合併後の新しい行政区域の中において地域により選択できる高校やその数が異なる等、不平等感を招く恐れもある状況である。

2 通学区域検討の方向

これらの諸課題を解決するためには、少なくとも現行の小学区制の維持では困難であり、通学区域は拡大するという意見が多数であった。

審議会では、拡大する方向の内、全県一学区と中学区程度の拡大の両者を比較検討することにより、更に論議を深めた。

なお、地域との連携等の観点から、現行の小学区制を維持する必要があるという意見もあった。

3 通学区域拡大の程度による比較検討

(1) 全県一学区とした場合

県民の意識

審議会が実施した「通学区域等に関するアンケート」では、通学区域を設けないとした回答者が42.3%と最も多い結果となった。

県教育委員会が毎年実施している「高校改革アンケート」(資料)においても同様の結果が得られていることから、通学区域を設けずに全県一学区とすることは、最も多くの県民の要望に応えた制度となる。

また、複合地域や学区外制限率などの通学区域の特例措置の設定が必要なくなり、県民にとって簡明でわかりやすい制度となる。

選択幅の拡大

全県一学区とした場合は、居住する地域にかかわらず選択可能な高校数が最大限に増え、生徒が進路に目標を持って努力する機会を与えることが可能となる。

また、全ての地域の生徒にとって従来選択できていた高校を、今後も引き続き選択することが可能な制度である。

特色ある学校づくり

幅広い選択肢の中から、生徒が主体的に高校を選ぶことにより、高校間の切磋琢磨が生じ、特色づくりの一層の推進が期待できる。また、高校が特色づくりによって活性化することにより、生徒にとって良い効果が還元されることが期待できる。

市町村合併の影響

全県一学区とした場合には、今後、どのような市町村合併があっても、通学区域を見直す必要は生じない。

課題

全県一学区とした場合の課題点として、次のような意見が出された。

- ・選択肢が最大限に拡がったとしても、中学生に将来を見据えた学校選択が可能であるのか
- ・学力等の制約により、幅広い選択肢を生かすことができる生徒は限られるのではないか
- ・大幅な制度改正となり、生徒や保護者にとって不安感が生じる

これらの課題に対しては、各高校からの積極的な情報提供や中学校における進路指導の一層の充実、生徒の多様な興味・関心、能力・適性等を多面的に評価できるような入学者選抜制度への見直しが必要であるとの意見があった。

(2) 中学区程度とした場合

県民の意識

審議会が実施した「通学区域等に関するアンケート」では、「通学区域を広くする」とした回答者は27.8%であり、「通学区域を設けない」42.3%に次いで2番目に多い。

県教育委員会が毎年実施している「高校改革アンケート」においても、平成14年の地教行法改正により「通学区域を設けない」という選択肢が加えられて以来、中学区程度への拡大を希望する回答者の比率は、平成14年27.1%、平成15年26.7%とほぼ同様の結果である。

なお、中学区程度への拡大を支持する意識として、全県一学区とした場合と比較して、急激な制度変更とならず生徒や保護者に与える不安感が少ないから、という意見があった。

選択幅の拡大

中学区程度の拡大とした場合には、小学区に比べ、選択可能な高校の数はある程度増える。

幅広い選択肢を確保することについては「通学区域等に関するアンケート」においても46.5%が考慮すべき点であると回答している。

地域との連携

小学区制の下では、普通科高校進学を希望する生徒の殆どが通学区域内の高校へ進学していた。このことから、高校に近い地域の生徒が通学することにより、全県一学区とした場合に比べ、地域の高校としての意識が残るといった意見があった。

課題

中学区程度の拡大とした場合の問題点として、次のような意見が出された。

- ・現状中学区となっている甲府学区を現状維持とすることは、実質的に選択肢の拡大とならず、選択肢を拡げるという要望に応えることとならない
- ・どのような通学区域の線引きをしても、通学区域の境界付近では隣接通学区域の近い高校を選択できない不満が生じる
- ・通学区域外からの受検は通学区域内からの受検に比べて合否判定上不利な場合が生じる
- ・今後の市町村合併により通学区域への影響が生じる
- ・新たな通学区域の設定により、募集定員の調整が必要となり、一部の高校は小規模化する
- ・少子化の著しい地域においては、通学区域を設けて生徒の流入を制限することにより、高校が小規模化してしまう
- ・選択幅が現状と同じか現状より少なくなることは好ましくない

これらの課題の内、中学区程度として選択幅を拡大することに対しては、通学区域の線引きの拡大や複合学区の設定により対応することが考えられるが、複合地域を合併後の新市の一部に設定したり、大幅に設定することは好ましくないという意見があった。

さらに、複合学区を現行の通学区域以上に設定しないようにするためには学区外制限率の大幅な引き上げが考えられるが、学区外制限率を大幅に引き上げることは、もはや通学区域を設けても意味のないことであるという意見があった。

(3) 共通する課題について

通学区域を拡大した場合には、拡大の程度によらず共通する課題として次のような意見が出された。

- ・過度の受験競争が生じないか
- ・高校が序列化し学校間格差の拡大が生じないか
- ・特定校へ志願者が集中しないか
- ・甲府学区内の高校への志願者が集中しないか

これらの課題については、公立高校の通学区域を定める旨の条文を削除した地教行法の改正に際しても、衆議院において「高等学校教育を適正に進めるため、受験競争を激化させたり、学校間格差を助長することがないよう努めること。」と附帯決議が行われた趣旨と通じる事項でもあり、通学区域の見直しを行うに当たっては、何らかの対応策が講じられるべき点である。

審議会では、各高校からの積極的な情報提供や中学校における進路指導の更なる充実により、生徒が主体的に高校を選択できるようにすること、また、魅力ある高校づくりの一層の推進や、生徒に選択される学校となるよう、今後は、高校間における切磋琢磨を期待する意見が出された。

4 改善の方向

通学区域を拡大した場合に課題とされた、過度の受験競争の発生、高校の序列化による学校間格差の拡大、特定校への志願者の集中などについては、いわゆる受験学力のみを偏重した評価とならないよう、入学者選抜制度の改善などにより回避することが可能であると考える。

よって、通学区域は、居住する地域にかかわらず、全ての生徒にとって学校選択幅が平等、かつ最大限に増えるよう、入学者選抜制度を改善する中で、通学区域は撤廃し全県一学区とすることが妥当である。

なお、生徒の主体的な学校選択が可能となるよう、高校においては特色づくりの一層の推進が必要である。県教育委員会においては、特色づくりのための各学校の取り組みに対して一層の人的、財政的支援を行う必要がある。

また、中学校における生徒一人ひとりへのきめ細かな進路指導の更なる充実のための支援も積極的に行う必要がある。

小学区・総合選抜制度のあり方について

1 小学区・総合選抜制度の導入の経緯及び現状

総合選抜制度とは、同一地区(通学区域)内における高校(同一課程、同一学科)の定員合計に当たる数の合計をまず決定し、合格者の各高校への配分については、総合成績、通学距離等の基準に基づいて決定する方法である。

(1) 小学区・総合選抜制度の変遷

昭和42年の山梨県高等学校入学者選抜制度審議会(第1次)の開催当時、甲府学区には3校の全日制普通科高校(甲府第一、甲府第二、昭和38年度新設の甲府南)があったが、入学者の学力資質による学校間格差が問題とされていた。

審議会では、昭和25年に小学区制を基本に制定された通学区域について、「学区内の進学希望者をその学区の特定高校に進学させるようにすることは、一面において学校選択の自由を認めないことになるのであるが」、「県内の全ての高校がいずれも教育内容が充実され、施設も完備した格差なき状況となるよう改善」に対する努力を求め、これを前提に「教育理念上是認」されるものとして、小学区制に基づく現行通学区域を維持すべきであるという基本方針が打ち出され、やむを得ない地域だけを中学区とすることとした。さらに、中学区となっていた甲府学区においては、将来的には、小学区制へ移行するための過渡的な措置として、

- ・中学区における高校の学校間格差を是正し、生徒同士の切磋琢磨を促す。

- ・過度の受験競争を抑制し、中学校教育の正常化を図る。

- ・新設高校の育成を図る。

ことを目的に、総合選抜制度を導入することとして答申を行った。

その後、第2次から第7次の審議会において、新設校の設置に伴い中学区となった他学区への総合選抜制度の導入、所属校指定方法の改善に関する答申を順次行ってきた。

所属校指定方法については、総合選抜実施当初は、合格者を成績順に交互に所属校を指定する「千鳥方式」、昭和59年度入学者選抜から甲府学区において、居住地域に近い高校を優先する「地域順

位方式」、平成6年度入学者選抜から、全ての総合選抜において、総合成績により合格者を層化し、層の中で可能な限り生徒の希望を生かして所属校を指定する「希望を取り入れる方式」へと改善を重ねてきた。

さらに、平成10年度入学者選抜から推薦入学を導入したことにより、総合選抜の枠組みの中で推薦入学の内定者を希望校に指定することとした。

(2) 総合選抜制度に関する県民の意識

審議会において実施した「通学区域等に関するアンケート」において、総合選抜制度に関する調査項目の結果概要は次のとおりである。

中学区における総合選抜制度についてどう考えるか。

・現状でよい	40.8%
・廃止した方がよい	34.5%
・わからない	23.4%

であり、全体としては現状維持を望む意見が最も多かった。

「現状でよい」と回答した比率が最も多かったのは、調査対象者別に、中学生、高校生、中学2年生保護者であり、中学3年生保護者、高校保護者、教員では「廃止した方がよい」が最も多かった。

なお、県教育委員会が毎年実施している「高校改革アンケート」においては、平成14、15年度は「廃止した方がよい」と回答した者が最も多く、総合選抜制度については意見が拮抗している状況である。

また、県のホームページ上に開設した「通学区域等に関する県民フォーラム」においては総合選抜制度の廃止を求める意見が多く提出された。

(3) 総合選抜制度に関する課題

総合選抜制度導入時の目的に関して

生徒急増期に創設され、生徒数の増加に伴い新たに中学区となった通学区域へも順次導入されてきた総合選抜制度は、過度の受験競争や入学者の学力資質による学校間格差を抑制するなど一定の役割を果たしてきた。

また、全日制普通科は平成元年に塩山高校に設置されて以来、増設は行われておらず、新設高校の育成という目的も達成されたものと

考えられる。

審議会では、生徒減少期の現在においては、制度本来の役割は終わっているとして廃止を求める意見が多数であった。

なお、学校間格差の是正、過度の受験競争の抑制という点については現在でも有効に機能しているとして存続を求める意見もあった。

特色ある学校づくりの推進

前述のように、中学区における総合選抜制度は、「県内の全ての高校がいずれも教育内容が充実され、施設も完備した格差なき状況」が確立された場合には、小学区へ移行することが前提とされていた制度であり、学校の特色づくりを推進する趣旨とは相容れない部分が根本にあった。

このことから、生徒減少期を迎え、各高校が特色づくりに取り組む現在では、総合選抜を行っている高校も無個性ではいられなくなっているが、通学区域や総合選抜制度といった規制の中では特色づくりの一層の推進が困難な面もあるという意見があった。

学校選択に関して

総合選抜制度導入時にも、「一面において学校選択の自由を認めないこと」がデメリットとして認識されていた。しかし、全ての高校の均等化こそが喫緊の課題に対応するために優先されるべきであるとして、導入当時は、入学者の学力資質が均等となる、「千鳥方式」によって所属校を決定することとした。

その後、居住する近くの学校に通学できないなどのいわゆる「不本意入学」が課題とされ、審議会においても、「希望を取り入れる方式」の導入により、志願者の希望を優先させる選抜方法へと改善を加える答申を行ってきた。

近年、生徒の多様な進路希望に対応するため、専門教育学科の併置やコース制の導入により、各高校が特色を持ち、志願者の学校選択における希望校が、より明確になってきている。総合選抜制度の中では、複数校の合否ラインが単一になるため、志願者にとっては安全圏が広く過度の競争が抑制される利点があるが、反面、特定の高校への進学希望は制限されることになる。総合選抜を行う各高校が特色を持ち始める中で、特定の高校へ入学できなかったという点が問題点

としてクローズアップされてきている。

審議会においても、志願者の希望を優先させる選抜方法や推薦入学の導入の結果、学校間格差について均等とは言えない状況であるという意見があった。また、一般入学者選抜では結果的に86.2%の志願者の希望がかなえられている一方で、13.8%の「不本意入学」が生じており、学校教育の中で、不本意入学者への対応が困難であるという意見もあった。

その他

総合選抜制度とは、前述のとおり定員合計に当たる数の合計をまず決定し、合格者を各学校へ配分していく方法である。

よって、本県の場合、各学校の規模が同じとした場合、単独選抜と比較して総合選抜制度実施学区では、定員数は2倍から4倍多くなることになる。

審議会では、定員数が多くなることにより、一定水準に達している志願者が進学できるとなったときに、それ以上の努力を怠る恐れがあるという指摘や、自分の力で学校選択を行い納得のいく受検ができるようにすべきだという意見があった。

2 改善の方向

小学区を基本として実施されてきた総合選抜制度は、生徒急増期において、過度の受験競争の抑制、学校間格差の是正、新設校の育成という役割について一定の成果を挙げてきた。

しかし、少子化が進み生徒の進路希望なども多様化する現在、その役割は終えたものと考えられる。

また、総合選抜制度を存続させることは、通学区域を撤廃し、生徒の主体的な学校選択を保障するとした考え方とは逆行することにもなる。

よって、これからは志願者本人の特性や進路希望に応じた学校選択が可能となるよう、小学区・総合選抜制度は廃止することが妥当である。

入学者選抜制度等のあり方について

1 入学者選抜制度の改善について

審議会では通学区域は撤廃することに意見集約されたが、その際生徒の選択幅が平等かつ最大限に増えるという反面、いわゆる受験学力に偏重した入学者選抜が行われた場合は、

- ・過度の受験競争の発生
- ・高校の序列化の発生
- ・特定校への志願者の集中

等が課題として生じ得ることが指摘された。

審議会では入学者選抜制度の改善を行うことにより、これらの課題点の抑制を図る対応を行うこととし、入学者選抜制度の改善に当たっては、生徒が目標に向かってチャレンジできるよう受検機会の複数化、生徒の多様な興味・関心、能力・適性等を適切に評価できるような多様な評価尺度の設定、学校の特色づくりの一層の推進に資することが可能となるような入学者選抜制度の導入の必要性に対する意見が出された。

県教育委員会においては、以下の項目に関して審議会における意見を記すので、導入について検討されたい。

(1) 受検機会の複数化

現在の入学者選抜は、推薦入学、一般入学者選抜、再募集の3段階で行われているが、推薦入学の出願資格は中学校長の推薦を得ることが前提となっている。そのため、多くの受検生は一般入学者選抜のみにより受検が行われている。

このことから、中学生たちが目的意識を持って学校選択に取り組めない状況にある。

- ・通学区域が撤廃され、総合選抜制度を廃止した場合には、各高校ごとの単独選抜となる。受検生の不安感を考慮した場合、可能な限り多くの受検生が一度は目標とする高校にチャレンジできるよう、受検機会を実質的に増やすことが必要である。
- ・今の推薦入学における募集定員枠は必ずしも十分ではない。全県的な志願者の動きを見る中で検討すべきである。
- ・推薦入学については、結果について生徒や保護者に説明できる

よう、透明性の確保が必要である。

- ・再募集については定員割れがあったところに限って行われているが、全校に事前に再募集の定員枠を設けなければ、本当の意味の再募集にならないのではないか。

(2) 複数の評価尺度による選抜

現在の入学者選抜における選抜方法は、調査書と学力検査の成績を同等に扱うこととされている。

生徒の多様な興味・関心、能力・適性等を適切に評価するためには、複数の尺度による評価を行うことが考えられる。

- ・学校の特色に応じて受検方法や選抜尺度の多様化を十分検討していく必要がある。
- ・評価基準を複数化するために受検機会も複数化する必要がある。
- ・多面的に評価するために、一般入学者選抜における調査書と学力検査の比率を変えらるということも検討する必要がある。

(3) 特色ある学校づくりの推進

通学区域のあり方について審議する際、今後は、生徒の主体的な学校選択が可能となるよう、各高校においては特色づくりの一層の推進が必要であるとした。そのためには、高校のそれぞれの特性を生かした不断の努力は当然継続されるべきである。

審議会では入学者選抜制度と特色づくりの関係について意見が出された。

- ・志願してほしい生徒像の提示に当たっては、受検生にとって、各高校の特色がわかるよう具体的に記載する必要がある。
- ・入学者選抜制度に関する学校裁量については、入学者選抜における配点比率、教科の傾斜配点、推薦入学等での裁量の拡大を検討する必要がある。
- ・大学受験以外の特色ある、生徒一人ひとりに適した進路を各高校が真剣に模索する必要がある。

(4) その他

- ・募集定員の策定に当たっては進路希望調査結果による入学希望

者数に見合うようにする必要がある。

- ・入学者選抜制度の改善に当たっては、中学校と高校が協力して課題を解決していくことが必要である。
- ・制度改正に当たっては、私立高校との協調にも留意する必要がある。

2 新たな入学者選抜制度の導入時期について

今回の答申は、昭和43年度入学者選抜から37年の長きにわたり、小学区及び総合選抜制度を基本として実施されてきた本県入学者選抜制度の根幹を変える内容となるものであり、中学生やその保護者、学校現場の不安感は大きいことが想定される。

よって、新たな入学者選抜制度の実施に当たっては、必要な周知や準備のための期間を設ける等して、不安感を可能な限り取り除く中での移行が必要である。

また、移行に当たっては、県教育委員会から受検生や保護者、関係機関等への積極的な情報提供を行うなどして、混乱が生じないよう対応を願う。

なお、具体的時期については次のような意見があったので参考とされたい。

- ・具体的な制度を十分に検討して、周知を行っていくということを考えれば、早くても平成19年度入学者選抜からということになるものと考えられる。
- ・平成17年度中に十分に検討し、来年度には周知徹底を図っていきながら、平成19年度からというのが妥当であると考える。

お わ り に

今回の答申は、生徒の主体的な学校選択の自由を保障する観点から、通学区域を撤廃し、小学区・総合選抜制度を廃止することが妥当であるとの方向を示した。

生徒が自ら学校を選ぶことによって、自分の将来を見つめ、その目標に向かって、これまで以上に意欲的に学ぶことが期待される。

こうした学ぶ意欲は、多様な能力を開花させ、変革の時代をたくましく生き抜いていくための個性や創造性をはぐくむうえで必要不可欠であると考えている。

生徒が自分に合った進路を的確に選択するため、各県立高校は学校の個性化・多様化を図る中で、これまで培ってきた伝統と遺産を生かしつつ、時代のニーズに対応した特色ある学校づくりを一層推進し、それを生徒や保護者に分かりやすく伝えていく必要がある。

さらに、中学校には、生徒の自由な意志を尊重する中で、個性や適性に基づいた学校選択が的確に行われるよう、進路指導の一層の充実を求めたい。

通学区域が撤廃されても、高校は地域社会との係わりの中で学校のあり方を捉え直し、地域の信頼に応える学校づくりを進めることが求められている。そのためにも、地域に開かれた学校経営を積極的に行う必要がある。

県教育委員会には、答申の趣旨を入学者選抜制度の改善に十分に生かし、制度の円滑な導入を期待するものである。

21世紀の社会を形成し、その中で生きていく生徒たちのために、本答申が適切に機能することを願ってやまない。

資 料

諮 問	19
委員名簿	20
審議会開催状況	21
山梨県立高等学校通学区域等に関する規則	22
県立校学校通学区域図（平成16年4月1日現在）	24
〃（平成17年6月27日現在）	25
中学卒業・進学者数、進学率	26
学区別中学校卒業見込者数	27
通学区域等に関するアンケート	28
〃（資料編）	37
高校改革アンケート結果	51
通学区域等に関する県民フォーラムの概要	56

(写)

教新高第114号
平成16年7月20日

山梨県高等学校入学者選抜制度審議会会長 殿

山梨県教育委員会

諮 問

本県の高等学校入学者選抜制度に関し、山梨県附属機関の設置に関する条例第2条第2項の規定により設置される貴審議会に、次の事項について意見を求めます。

- 1 通学区域の在り方について
- 2 小学区・総合選抜制度の在り方について
- 3 その他、現行の入学者選抜制度等について

諮 問 の 理 由

山梨県の通学区域については、昭和25年に高等学校教育の普及およびその機会均等、通学上の便宜を図る等のため制度化されました。

昭和30年代後半より生徒急増期に入り、高度経済成長を背景とした高校進学率の大幅な上昇に伴い、受験競争の高まりと相まって、学校間格差への対応が課題とされる中、昭和42年「山梨県立高等学校通学区域等に関する規則」を制定し、改めて普通科の通学区域を設定するとともに、総合選抜制度を導入いたしました。

以降現在に至るまでには、産業・経済の進展に伴い社会情勢が大きく変化しており、居住地の広域化、移動時間の短縮化等、生徒の通学環境も大きく変容しています。しかしながら、現在の通学区域の設定は、基本的には昭和42年当時と変わっておりません。さらに、生徒の興味・関心、能力・適性、進路等が多様化しており、生徒の進路希望に的確に対応することも求められています。

国では、公立高等学校の通学区域の弾力化を進めるため、通学区域の設定を規定していた「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第50条を削除し、通学区域の設定については、都道府県教育委員会の判断に委ねることにしました。これを受け、全国的な流れは、通学区域拡大の方向にあります。

また、本県においても、学識経験者等で構成する第2次新しい高校づくり課題研究協議会から、「通学区域については、拡大する方向が望ましい。」との報告を受けております。

このことから、現状の通学区域の在り方、小学区・総合選抜制度の在り方等について検討する必要があるものと判断いたしました。

つきましては、ここに山梨県高等学校入学者選抜制度審議会を開催し、通学区域の在り方、小学区・総合選抜制度の在り方についてご審議をお願いするとともに、現行の入学者選抜制度等の改善についてご審議いただきたく諮問するものであります。

資料

第10次山梨県高等学校入学者選抜制度審議会委員名簿

氏名	役職名等	備考
青木敏行	山梨県町村教育長会会長	
秋山俊一	山梨県連合教育会会長	
浅川護	山梨県公立小中学校長会会長	
飯室俊一	元甲府東高等学校校長	
池田政子	山梨県立女子短期大学教授	
石川恵	弁護士	
井口ひとみ	山梨県PTA協議会副会長	
小澤建雄	山梨交通(株)代表取締役社長	
齊藤花香里	山梨県高等学校PTA連合会婦人部長	
坂本悦子	山梨県高等学校長協会副会長	
坂本初男	山梨県市町村教育委員会連合会会長	副会長
津金洋一	(株)ミラプロ代表取締役社長	
戸田康	山梨県高校教育会会長	
永井健夫	山梨学院大学助教授	
中村勝一	元高根中学校校長	
堀哲夫	山梨大学教育人間科学部長	会長
薬袋洋子	山梨英和中学・高等学校校長	
山本紘典	山梨県高等学校長協会会長	

役職名等は委員委嘱・任命時のものである。

審議会開催状況

	開催期日	審 議 項 目 等
平成16年度		
1	7月20日	委員の委嘱・任命、会長・副会長の選出 諮問 経緯、諮問事項の説明、審議日程 県立高等学校通学区域等に関する規則について
2	8月27日	県立高等学校の通学区域について 小学区・総合選抜制度について 通学区域等に関するアンケート調査の実施について
3	11月1日	通学区域等に関するアンケート調査の結果について 市町村合併の動向と通学区域について 県立高等学校の通学区域について 通学区域等に関する県民フォーラムの実施について
4	12月16日	通学区域等に関する県民フォーラムの状況について 県立高等学校の通学区域について
5	1月24日	県立高等学校の通学区域について
6	3月14日	県立高等学校の通学区域について 小学区・総合選抜制度について
平成17年度		
7	4月18日	小学区・総合選抜制度について 入学者選抜方法の改善について 新たな入学者選抜制度の導入時期について
8	5月23日	審議のまとめ
起草	6月2日 6月14日	起草委員会 答申(案)の起草
9	6月22日	答申について
答申	6月27日	答申

山梨県立高等学校通学区域等に関する規則

昭和42年10月5日
(教育委員会規則第7号)

(目的)

第1条 この規則は、山梨県立高等学校(以下「高等学校」という。)における教育の普及及びその機会均等を図るため、高等学校の通学区域(以下「学区」という。)等について必要な事項を定めることを目的とする。

(学区及び学区外入学の制限)

第2条 高等学校の全日制課程に通学する者(以下「本人」という。)は、この規則の定めるところにより、本人及び保護者(本人に対して親権を行う者、親権を行う者がないときは、未成年後見人又は未成年後見人の職務を行う者をいう。)の住所の所属する学区内の高等学校に通学するものとする。ただし、学区外入学を許可された者、再募集により入学を許可された者及び入学後学区外通学を許可された者は、この限りでない。

2 前項ただし書の学区外入学を許可される者の数は、入学者募集定員の一定率以内とし、その率は、別に定める。

(学区の種別)

第3条 学区は、普通科についての学区(以下「普通学区」という。)、専門教育を主とする学科についての学区(以下「専門学区」という。)及び総合学科についての学区(以下「総合学区」という。)とする。

(普通学区)

第4条 普通学区の地域は、別表第1による。ただし、学年による教育課程の区分を設けない課程(以下「単位制による課程」という。)は、全県を1学区とする。

(専門学区)

第5条 専門学区は、全県を1学区とする。

(総合学区)

第5条の2 総合学区は、全県を1学区とする。

(複合地域)

第6条 1学区に所属させることが困難な実情にある地域についてはこれを複合地域とする。

2 複合地域においては、その所属するいずれの学区内の高等学校にも通学することができる。

第7条 複合地域は、別表第2による。

(へき地に居住する志願者の特別措置)

第8条 へき地に居住する志願者については、学区についての特別措置を行うものとし、実施について必要な事項は別に定める。

(学区審査委員会)

第9条 志願者の適正な学区を審査するため、普通科(単位制による課程を除く。)を設置する高等学校に学区審査委員会を置く。ただし、同一学区内に2以上の高等学校がある場合は、共同して置くものとする。

2 前項の学区審査委員会について必要な事項は、別に定める。

(総合選抜)

第10条 同一学区内に普通科(単位制による課程を除く。)を設置する高等学校が2校以上ある場合の入学者選抜は、当該各高等学校の合計定員を入学予定者と決定しこれを当該各高等学校に対して一定の基準により配分する方法(以下「総合選抜」という。)によって行うものとする。

2 総合選抜実施について必要な事項は、別に定める。

(違反者の処置)

第11条 この規則に違反して通学している者を認めるときは、高等学校長はすみやかに、その者を所属の学区内の高等学校に転学させるか若しくは退学させなければならない。

附 則

1 この規則は、公布の日から施行し、昭和43年4月以降の高等学校入学者に適用する。

2 山梨県立高等学校通学区域に関する規則(昭和26年山梨県教育委員会規則第1号)は廃止する。ただし、昭和42年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則(平成13年教委規則第15号)

(施行期日)

1 この規則は、公布の日から施行する。ただし、第1条の改正規定は平成14年1月11日から、別表第1大月の項を削る改正規定は平成16年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 別表第2に上野原学区都留学区の項を加える改正規定は、平成14年4月以降の高等学校入学者に適用する。

別表第1・2省略

県立高等学校通学区域図

(平成16年4月1日現在)

凡 例	
学区境	
普通高校	工業高校
商業高校	農業高校
全日制単位制高校	
総合学科高校	



(通学区域)

学区	高等学校名	所 属 地 域
日野春	北杜高等学校	(北巨摩郡)高根町、長坂町、大泉村、小淵沢町、白州町及び武川村
葦崎	葦崎高等学校	葦崎市、(北巨摩郡)双葉町、明野村、須玉町のうち旧江草村及び旧増富村の区域
甲府	甲府第一高等学校 甲府南高等学校 甲府東高等学校 甲府昭和高等学校	甲府市、(中巨摩郡)竜王町、敷島町、玉穂町、昭和町
小笠原	巨摩高等学校 白根高等学校	南アルプス市、(南巨摩郡)増穂町
市川	市川高等学校	(西八代郡)三珠町、市川大門町、六郷町、上九一色村のうち大字梯、古閑、(南巨摩郡)鯨沢町のうち旧大同村の区域
身延	身延高等学校	(南巨摩郡)早川町、身延町、南部町、(西八代郡)下部町のうち旧古閑村、旧久那土村及び旧共和村を除く区域
石和	石和高等学校	(東八代郡)石和町、御坂町、八代町、芦川村
東山梨	山梨高等学校 塩山高等学校	山梨市、塩山市、(東山梨郡)牧丘町、勝沼町、三富村、大和村、春日居町、(東八代郡)一宮町
上野原	上野原高等学校	(北都留郡)上野原町、小菅村、丹波山村
都留	桂高等学校	都留市、(南都留郡)秋山村、道志村、西桂町
吉田	吉田高等学校 富士河口湖高等学校	富士吉田市、(南都留郡)忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、(西八代郡)上九一色村のうち大字精進、本栖、富士ヶ嶺の区域


(複合地域)

学区	所 属 地 域
日野春学区 葦崎学区	(北巨摩郡)須玉町のうち旧多麻村、旧若神子村、旧穂足村及び旧津金村の区域
甲府学区 市川学区	(中巨摩郡)田富町 (東八代郡)豊富村
甲府学区 石和学区	(東八代郡)境川村、中道町
小笠原学区 市川学区	(南巨摩郡)鯨沢町のうち旧大同村を除く区域
市川学区 身延学区	(南巨摩郡)中富町 (西八代郡)下部町のうち旧久那土村、旧共和村及び旧古閑村の区域
上野原学区 都留学区	大月市

県立高等学校通学区域図

(平成17年6月27日現在)

凡 例

- 学区境 
- 普通高校 工業高校
- 商業高校 農業高校
- 全日制単位制高校
- 総合学科高校



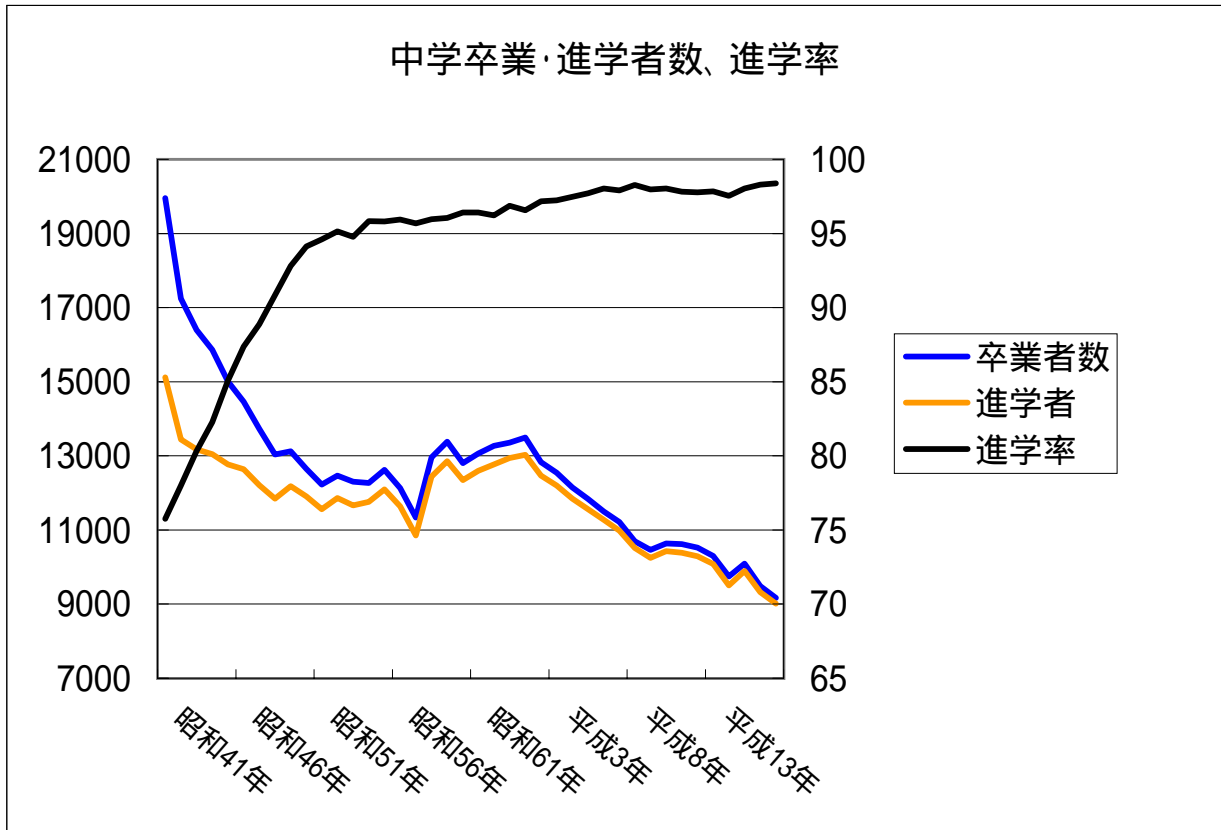
(通学区域)

学区	高等学校名	所属地域
日野春	北杜高等学校	北杜市のうち旧高根町、旧長坂町、旧大泉村、旧白州町及び旧武川村の区域(北巨摩郡)小淵沢町
葦崎	葦崎高等学校	葦崎市、北杜市のうち旧明野村、旧江草村及び旧増富村の区域、甲斐市のうち旧双葉町の区域
甲府	甲府第一高等学校 甲府南高等学校 甲府東高等学校 甲府昭和高等学校	甲府市、甲斐市のうち旧竜王町及び旧敷島町の区域、(中巨摩郡)玉穂町、昭和町
小笠原	巨摩高等学校 白根高等学校	南アルプス市、(南巨摩郡)増穂町
市川	市川高等学校	(西八代郡)三珠町、市川大門町、六郷町、上九一色村のうち大字梯、古閑、(南巨摩郡)鯉沢町のうち旧大同村の区域
身延	身延高等学校	(南巨摩郡)早川町、身延町のうち旧中富町、旧古閑村、旧久那土村及び旧共和村を除く区域、南部町
石和	石和高等学校	笛吹市のうち旧石和町、旧御坂町及び旧八代町の区域、(東八代郡)芦川村
東山梨	山梨高等学校 塩山高高等学校	山梨市、塩山市、笛吹市のうち旧春日居町及び旧一宮町の区域、(東山梨郡)勝沼町、大和村
上野原	上野原高等学校	上野原市のうち旧上野原町の区域、(北都留郡)小菅村、丹波山村
都留	桂高等学校	都留市、上野原市のうち旧秋山村の区域、(南都留郡)道志村、西桂町
吉田	吉田高等学校 富士河口湖高等学校	富士吉田市、(南都留郡)忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、(西八代郡)上九一色村のうち大字精進、本栖、富士ヶ嶺の区域

(複合地域)

学区	所属地域
日野春学区 葦崎学区	北杜市のうち旧多摩村、旧若神子村、旧穂足村及び旧津金村の区域
甲府学区 市川学区	(中巨摩郡)田富町 (東八代郡)豊富村
甲府学区 石和学区	笛吹市のうち旧境川村の区域、(東八代郡)中道町
小笠原学区 市川学区	(南巨摩郡)鯉沢町のうち旧大同村を除く区域
市川学区 身延学区	(南巨摩郡)身延町のうち旧中富町、旧久那土村、旧共和村及び旧古閑村の区域
上野原学区 都留学区	大月市

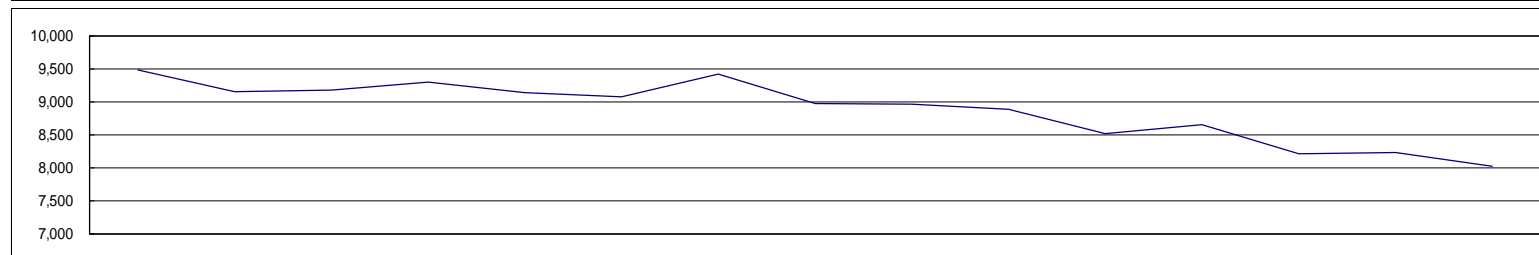
資料



(単位：人、%)

卒業年	卒業者数	進学者数	進学率	卒業年	卒業者数	進学者数	進学率
S41年3月	19,951	15,115	75.8	S61年3月	13,063	12,594	96.4
S42年3月	17,241	13,446	78.0	S62年3月	13,266	12,766	96.2
S43年3月	16,397	13,172	80.3	S63年3月	13,357	12,938	96.9
S44年3月	15,858	13,047	82.3	H元年3月	13,495	13,032	96.6
S45年3月	15,009	12,771	85.1	H2年3月	12,832	12,468	97.2
S46年3月	14,466	12,640	87.4	H3年3月	12,548	12,200	97.2
S47年3月	13,731	12,205	88.9	H4年3月	12,149	11,843	97.5
S48年3月	13,035	11,842	90.8	H5年3月	11,833	11,562	97.7
S49年3月	13,123	12,179	92.8	H6年3月	11,504	11,279	98.0
S50年3月	12,649	11,906	94.1	H7年3月	11,215	10,980	97.9
S51年3月	12,223	11,564	94.6	H8年3月	10,697	10,512	98.3
S52年3月	12,469	11,862	95.1	H9年3月	10,464	10,251	98.0
S53年3月	12,303	11,661	94.8	H10年3月	10,640	10,431	98.0
S54年3月	12,270	11,758	95.8	H11年3月	10,618	10,386	97.8
S55年3月	12,625	12,096	95.8	H12年3月	10,523	10,289	97.8
S56年3月	12,134	11,641	95.9	H13年3月	10,302	10,080	97.8
S57年3月	11,337	10,848	95.7	H14年3月	9,745	9,506	97.5
S58年3月	12,961	12,437	96.0	H15年3月	10,092	9,893	98.0
S59年3月	13,384	12,855	96.0	H16年3月	9,486	9,324	98.3
S60年3月	12,807	12,347	96.4	H17年3月	9,164	9,016	98.4

卒業時期	学区別中学校卒業見込者数																												増減計	H20.3 卒業者 対平成15 年度比率	H26.3 卒業者 対平成15 年度比率	H30.3 卒業者 対平成15 年度比率	
	H16.3	H17.3		H18.3		H19.3		H20.3		H21.3		H22.3		H23.3		H24.3		H25.3		H26.3		H27.3		H28.3		H29.3		H30.3					
	卒業者	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減					生徒数
学区名	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数	増減	生徒数				
日野春	402	3	399	28	371	59	430	54	376	23	399	22	377	38	339	15	324	23	347	63	284	17	301	52	249	7	256	17	273	129	93.5%	70.6%	67.9%
葦崎	593	22	615	20	635	24	611	47	658	9	667	24	643	9	634	25	609	4	613	19	594	14	580	14	566	29	537	1	538	55	111.0%	100.2%	90.7%
甲府	3,173	143	3,030	4	3,034	93	3,127	312	2,815	13	2,828	215	3,043	58	2,985	56	3,041	17	3,024	202	2,822	91	2,913	35	2,878	1	2,879	31	2,848	325	88.7%	88.9%	89.8%
小笠原	1,004	28	976	30	1,006	35	971	29	1,000	10	990	39	1,029	88	941	6	947	4	943	24	967	40	927	29	898	22	876	18	858	146	99.6%	96.4%	85.5%
市川	293	28	321	33	288	19	307	14	321	8	313	17	330	23	307	9	316	42	274	5	279	38	241	4	245	8	237	9	246	47	109.7%	95.1%	83.8%
身延	251	12	263	23	240	11	229	15	214	15	229	34	195	15	210	33	177	1	178	26	152	10	162	19	143	15	128	3	125	126	85.3%	60.6%	49.8%
石和	498	53	445	4	449	6	455	113	568	23	545	16	561	2	559	20	579	30	549	9	558	36	594	55	539	12	551	8	543	45	114.1%	112.0%	109.0%
東山梨	979	27	952	60	892	34	926	51	977	37	940	68	1,008	106	902	21	881	96	977	74	903	57	960	114	846	80	926	82	844	135	99.8%	92.2%	86.2%
(大月)	377	63	314	14	328	14	314	18	332	46	286	41	327	28	299	29	270	2	272	0	272	12	260	25	235	13	222	4	218	159	88.1%	72.1%	57.8%
上野原	317	15	302	15	287	43	330	41	289	5	294	24	318	53	265	1	264	34	230	27	257	22	235	20	215	17	198	27	171	146	91.2%	81.1%	53.9%
都留	498	23	475	22	497	21	476	9	467	5	472	9	463	1	462	14	448	22	426	7	419	11	430	4	426	7	419	15	404	94	93.8%	84.1%	81.1%
吉田	1,101	38	1,063	90	1,153	30	1,123	1	1,124	8	1,116	10	1,126	52	1,074	35	1,109	52	1,057	43	1,014	40	1,054	82	972	31	1,003	47	956	145	102.1%	92.1%	86.8%
計	9,486	331	9,155	25	9,180	119	9,299	158	9,141	62	9,079	341	9,420	443	8,977	12	8,965	75	8,890	369	8,521	136	8,657	445	8,212	20	8,232	208	8,024	1,462	96.4%	89.8%	84.6%
平成15年度基準増減累計		331		306		187		345		407		66		509		521		596		965		829		1,274		1,254		1,462		小学6年生	小学校就学前	平成14年度出生児	
対平成15年度比率		96.5%		96.8%		98.0%		96.4%		95.7%		99.3%		94.6%		94.5%		93.7%		89.8%		91.3%		86.6%		86.8%		84.6%					



資料

通学区域等に関するアンケート

調査の概要

1 調査の目的

通学区域等について、高等学校入学者選抜を控えている中学生及び入学者選抜を終えている高校生とその保護者、また、中学・高校の教員を対象にアンケート調査を実施し、入学者選抜制度審議会において審議を行うに当たっての基礎資料とする。

2 調査内容と項目数

項 目	調 査 内 容	質問項目
中学卒業後の進路希望について	・ 中学校卒業後の進路希望(中学生、その保護者) (問1)	1
入試制度について	・ 普通科の通学区域 (問2) ・ 通学区域検討の視点 (問3) ・ 総合選抜制度 (問4) ・ 普通科推薦入学者の割合 (問5【1】) ・ 普通科推薦入学の対象者 (問5【2】) ・ 制度変更による学校選択の変化 (問6)	6
計		7

3 調査対象

6,529人

(1) 中学2年生...	無作為に抽出した中学校(30校)の1学級の生徒全員	(1,010人)
(2) 中学3年生...	"	(1,009人)
(3) 高校1年生...	普通科高校(20校)の1学級の生徒全員	(796人)
(4) 保護者 ...	(1)～(3)の生徒の保護者	(2,815人)
(5) 教員 ...	(1)～(3)の全クラス担任等	(899人)

4 調査方法

各学校を通じて実施

5 調査時期

平成16年9月中旬(回収日10月4日)

6 回収結果

6,256件

	配付数	回収数	回収率
中学2年生	1,010	976	96.6%
中学3年生	1,009	962	95.3%
中学2年生保護者	1,010	936	92.7%
中学3年生保護者	1,009	919	91.1%
中学校教員	470	469	99.8%
高校1年生	796	788	99.0%
高校1年生保護者	796	778	97.7%
高校教員	429	428	99.8%
合計	6,529	6,256	95.8%

参考 (1) 比率(%)は、各項目ごとに小数点第2位を四捨五入してあるので、合計が100%にならない場合もある。

(2) 各設問を全体の傾向、調査対象者別、地域別、学区等別に分析した。

全体の傾向...その設問に回答した全対象者を分析した。

調査対象者別...その設問に回答した調査対象者ごとに分析した。

地域別...中学生、中学保護者、中学教員を在籍する中学校の所在地域(教育事務所所管区域)ごとに分析した。

学区等別...高校生、高校保護者、高校教員を在籍する普通科高校の学区及び校種ごとに分析した。
中学生、中学保護者、中学教員を在籍する中学校の所在地域の学区ごとに分析した。

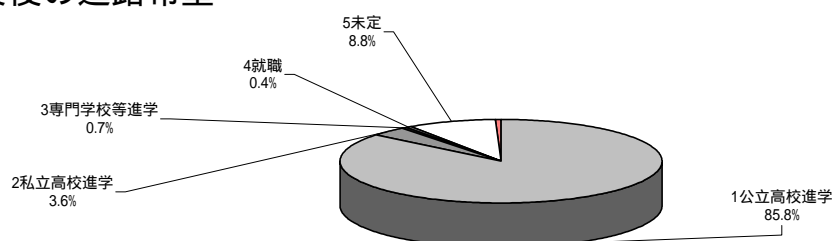
調査結果

問1 中学生とその保護者の方にお聞きします。中学卒業後の進路は決めていますか。
(つぎの中から1つ選んでください。)

- 1 公立高校進学 2 私立高校進学 3 高校以外の専門学校等進学
4 就職 5 未定

選択肢	中2生徒		中3生徒		中学生計		中2保護者		中3保護者		保護者計		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 公立高校進学	728	74.6%	857	89.1%	1585	81.8%	825	88.1%	846	92.1%	1671	90.1%	3256	85.8%
2 私立高校進学	30	3.1%	58	6.0%	88	4.5%	13	1.4%	35	3.8%	48	2.6%	136	3.6%
3 専門学校等進学	14	1.4%	7	0.7%	21	1.1%	2	0.2%	3	0.3%	5	0.3%	26	0.7%
4 就職	6	0.6%	4	0.4%	10	0.5%	2	0.2%	4	0.4%	6	0.3%	16	0.4%
5 未定	197	20.2%	32	3.3%	229	11.8%	82	8.8%	23	2.5%	105	5.7%	334	8.8%
回答なし	1	0.1%	4	0.4%	5	0.3%	12	1.3%	8	0.9%	20	1.1%	25	0.7%
計	976		962		1938		936		919		1855		3793	

中学卒業後の進路希望



【今回の調査結果】

中学卒業後の進路について中学生とその保護者に尋ねた。

全体の傾向

- ・ 「公立高校進学」と回答した比率が最も高く85.8%、以下、「私立高校進学」3.6%、「専門学校等進学」0.7%、「就職」0.4%の順である。

調査対象者別

- ・ 中学3年生についてみると、同時期に行われた「進路希望調査」とほぼ同じ結果が出ている。

	公立高校進学	私立高校進学	専門学校等進学	就職希望	その他	調査対象者
高校改革アンケート(H15)	91.4%(866人)	4.0%(38人)	0.0%(0人)	0.3%(3人)	4.2%(40人)	947人
進路希望調査(H16第1次)	89.9%(8,232人)	8.4%(772人)	0.1%(13人)	0.5%(45人)	1.0%(92人)	9,154人

- ・ 中学2年生についてみると、未定と回答なしを除くと以下のとおりである。

	公立高校進学	私立高校進学	専門学校等進学	就職希望	計
比率	93.6%(728人)	3.9%(30人)	1.8%(14人)	0.8%(6人)	778人

- ・ 保護者についてみると、生徒とほぼ同じ傾向にある。
また、「公立高校進学」と回答した比率は全体的に保護者の方が高い。

地域別(資料編 p.1参照)

- ・ 中学3年生についてみると、「公立高校進学」と回答した比率が最も高い地域は峡東91.6%、以下、峡中90.4%、富士北麓・東部88.3%、峡南87.1%、峡北83.3%の順である。

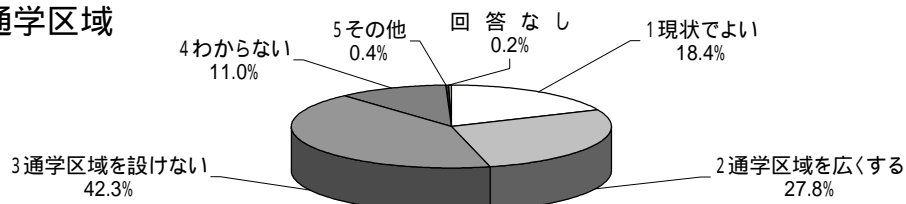
【普通科の通学区域】

問2 本県では普通科の通学区域について、7つの小学区(1つの学区に1つの学校がある学区)と4つの中学区(1つの学区に2～6の学校がある学区)に分けています(なお、1つの学区に7以上の学校がある学区は大学区と呼びます)。この学区制について今後どのようにしていくべきだと思いますか。(つぎの中から1つ選んでください。)

- 1 小学区の地域と中学区のと地域の両方がある現状でよい
- 2 通学区域を広くして、学区内から選べる高校が増えるようにする
- 3 通学区域を設けず、県内のどの高校でも自由に受検できるようにする
- 4 わからない
- 5 その他()

選択肢	中2生徒		中3生徒		中2保護者		中3保護者		中学教員		高1生徒		高校保護者		高校教員		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	224	23.0%	167	17.4%	190	20.3%	149	16.2%	113	24.1%	110	14.0%	115	14.8%	81	18.9%	1149	18.4%
2 通学区域を広くする	206	21.1%	219	22.8%	244	26.1%	265	28.8%	210	44.8%	193	24.5%	234	30.1%	168	39.3%	1739	27.8%
3 通学区域を設けない	365	37.4%	392	40.7%	434	46.4%	441	48.0%	129	27.5%	360	45.7%	365	46.9%	159	37.1%	2645	42.3%
4 わからない	178	18.2%	184	19.1%	65	6.9%	60	6.5%	13	2.8%	118	15.0%	57	7.3%	13	3.0%	688	11.0%
5 その他	1	0.1%	0	0.0%	3	0.3%	4	0.4%	4	0.9%	3	0.4%	2	0.3%	7	1.6%	24	0.4%
回答なし	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.5%	5	0.6%	0	0.0%	11	0.2%
計	976		962		936		919		469		788		778		428		6256	

普通科の通学区域



【今回の調査結果】

本県の普通科の通学区域(学区制)について尋ねた。

全体の傾向

- ・ 「通学区域を設けない」と回答した比率が最も高く42.3%、以下、「通学区域を広くする」27.8%、「現状でよい」18.4%の順である。

調査対象者別(資料編 p.2～3)

- ・ 「通学区域を設けない」と回答した比率は、中2生徒37.4%、中2保護者46.4%、中3生徒40.7%、中3保護者48.0%、高1生徒45.7%、高校保護者46.9%であり、生徒より保護者の方が高い。
- ・ 中学教員、高校教員についてみると、「通学区域を広くする」と回答した比率が最も高く、それぞれ44.8%、39.3%である。

地域別(資料編 p.2～3)

- ・ 中学生についてみると、「通学区域を設けない」と回答した比率は、峡北46.8%、峡東42.5%、富士北麓・東部40.8%、峡南40.7%、峡中34.6%の順である。
- ・ 中学保護者についてみると、「通学区域を設けない」と回答した比率は、峡東59.2%、峡北55.7%、峡南50.7%、峡中45.7%、富士北麓・東部36.7%の順である。

学区等別(資料編 p.3～4)

- ・ 全体の傾向及び調査対象者別と同様で、学区等別の大きな差異は見られないが、高校教員については、中学区及び単位制普通科において、「通学区域を設けない」と回答した比率が最も高くなっている。

【通学区域検討の視点】

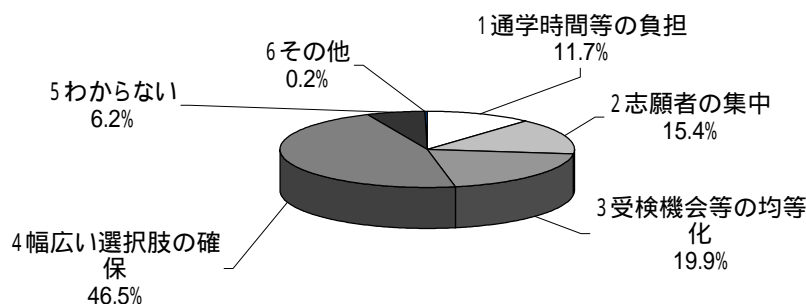
問3 これからの通学区域を考えると、どのような点を考慮することが必要だと考えますか。

(つぎの中から1つを選んでください。)

- 1 通学時間が長くなるなどの負担が生じないようにする
- 2 一部の高校に志願者が集中しないようにする
- 3 住んでいる場所によって受検できる高校の数や入試の方法(総合選抜制度の有無)が異ならないようにする
- 4 生徒の個性や高校の特色に応じて幅広い高校から選択できるようにする
- 5 わからない
- 6 その他()

選択肢	中2生徒		中3生徒		中2保護者		中3保護者		中学教員		高1生徒		高校保護者		高校教員		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 通学時間等の負担	131	13.4%	120	12.5%	122	13.0%	83	9.0%	45	9.6%	102	12.9%	80	10.3%	47	11.0%	730	11.7%
2 志願者の集中	179	18.3%	166	17.3%	129	13.8%	126	13.7%	92	19.6%	109	13.8%	94	12.1%	66	15.4%	961	15.4%
3 受検機会等の均等化	144	14.8%	165	17.2%	180	19.2%	205	22.3%	123	26.2%	166	21.1%	174	22.4%	88	20.6%	1245	19.9%
4 幅広い選択肢の確保	387	39.7%	397	41.3%	482	51.5%	476	51.8%	203	43.3%	337	42.8%	405	52.1%	223	52.1%	2910	46.5%
5 わからない	133	13.6%	113	11.7%	20	2.1%	25	2.7%	2	0.4%	70	8.9%	22	2.8%	2	0.5%	387	6.2%
6 その他	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	2	0.2%	3	0.6%	1	0.1%	0	0.0%	2	0.5%	10	0.2%
回答なし	2	0.2%	1	0.1%	1	0.1%	2	0.2%	1	0.2%	3	0.4%	3	0.4%	0	0.0%	13	0.2%
計	976		962		936		919		469		788		778		428		6256	

通学区域検討の視点



【今回の調査結果】

通学区域検討の際の視点について尋ねた。

全体の傾向

- ・ 「幅広い選択肢の確保」と回答した比率が最も高く46.5%、次いで「受検機会等の均等化」19.9%である。

調査対象者別(資料編 p.5～6)

- ・ 全体の傾向と同様で、全ての調査対象者において「幅広い選択肢の確保」と回答した比率が最も高い。
- ・ 中学保護者、高校保護者、高校教員についてみると、「幅広い選択肢の確保」と回答した比率がそれぞれ、51.6%、52.1%、52.1%と他の対象者に比べ高い。

地域別(資料編 p.5～6)

- ・ 中学保護者についてみると、「幅広い選択肢の確保」と回答した比率は峡南地域を除いて過半数を超えている。
- ・ 中学教員についてみると、峡東地域において「受検機会等の均等化」と回答した比率が最も高く、47.0%である。

学区等別(資料編 p.6～7)

- ・ 全体の傾向と同様で、全ての学区等において「幅広い選択肢の確保」と回答した比率が最も高い。
- ・ 単位制普通科についてみると、「幅広い選択肢の確保」と回答した比率が、小学区、中学区に比べ高い。

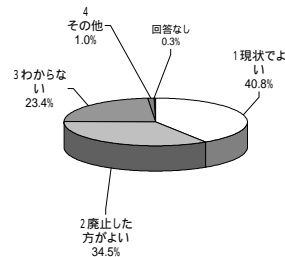
【総合選抜制度】

問4 現在中学区である甲府、小笠原、東山梨、吉田学区では総合選抜制度を行っています
が、どう考えますか。
(つぎの中から1つ選んでください。)

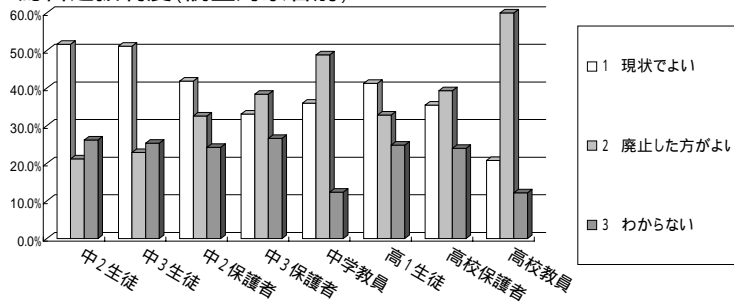
- 1 現状でよい
- 2 廃止した方がよい
- 3 わからない
- 4 その他()

選択肢	中2生徒		中3生徒		中2保護者		中3保護者		中学教員		高1生徒		高校保護者		高校教員		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	504	51.6%	492	51.1%	392	41.9%	304	33.1%	169	36.0%	325	41.2%	276	35.5%	89	20.8%	2551	40.8%
2 廃止した方がよい	207	21.2%	220	22.9%	305	32.6%	353	38.4%	229	48.8%	259	32.9%	306	39.3%	280	65.4%	2159	34.5%
3 わからない	256	26.2%	244	25.4%	227	24.3%	245	26.7%	58	12.4%	196	24.9%	187	24.0%	52	12.1%	1465	23.4%
4 その他	5	0.5%	4	0.4%	10	1.1%	14	1.5%	11	2.3%	4	0.5%	6	0.8%	7	1.6%	61	1.0%
回答なし	4	0.4%	2	0.2%	2	0.2%	3	0.3%	2	0.4%	4	0.5%	3	0.4%	0	0.0%	20	0.3%
計	976		962		936		919		469		788		778		428		6256	

総合選抜制度(全体)



総合選抜制度(調査対象者別)



【今回の調査結果】

現在、山梨県が行っている総合選抜制度について尋ねた。

全体の傾向

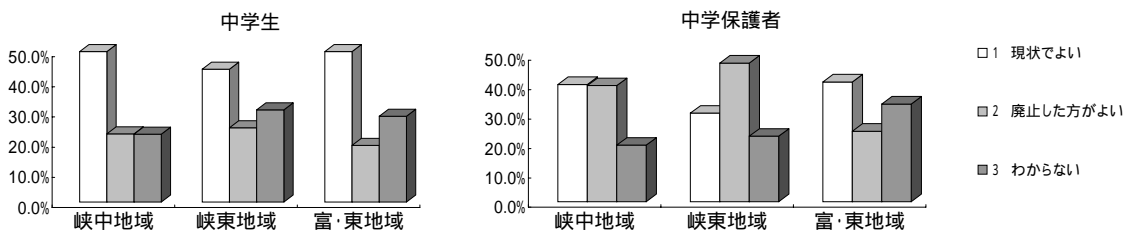
- ・ 「現状でよい」と回答した比率が最も高く40.8%、以下、「廃止した方がよい」34.5%、「わからない」23.4%の順である。

調査対象者別(資料編 p.7～8)

- ・ 中学生、高校生についてみると、「現状でよい」と回答した比率が最も高く、中学生51.4%、高校生41.2%である。
- ・ 中学保護者についてみると、「現状でよい」と回答した比率が最も高く、37.5%である。
- ・ 高校保護者についてみると、「廃止した方がよい」と回答した比率が最も高く、39.3%である。
- ・ 中学教員、高校教員についてみると、「廃止した方がよい」と回答した比率が最も高く、中学教員48.8%、高校教員65.4%である。

地域別(資料編 p.7～8)

- ・ 総合選抜制度を実施している地域で中学生とその保護者についてみると、以下のグラフになる。



学区等別(資料編 p.8～9)

- ・ 総合選抜制度を実施している中学区においては、高校生、高校保護者、高校教員ともに、「廃止した方がよい」と回答した比率が最も高く、それぞれ、39.5%、49.1%、64.8%である。

【普通科推薦入学者の割合】

問5 全日制普通科(コースを含む)では、学力検査では評価できない多様な個性や能力・適性、
と

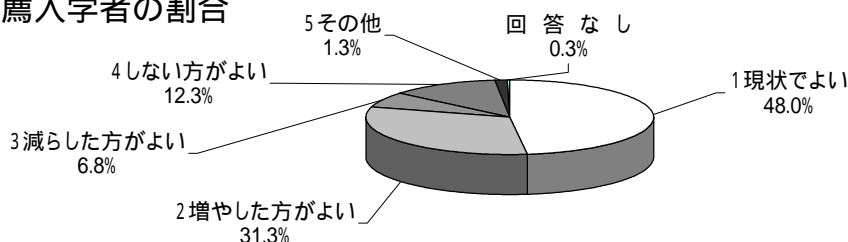
う考えますか。

(1) 推薦入学者の割合について (つぎの中から1つを選んでください。)

- 1 現状のままでよい
- 2 増やした方がよい
- 3 減らした方がよい
- 4 しない方がよい
- 5 その他()

選択肢	中2生徒		中3生徒		中2保護者		中3保護者		中学教員		高1生徒		高校保護者		高校教員		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	361	37.0%	432	44.9%	420	44.9%	444	48.3%	211	45.0%	524	66.5%	432	55.5%	181	42.3%	3005	48.0%
2 増やした方がよい	498	51.0%	431	44.8%	327	34.9%	310	33.7%	42	9.0%	147	18.7%	150	19.3%	56	13.1%	1961	31.3%
3 減らした方がよい	64	6.6%	59	6.1%	45	4.8%	33	3.6%	71	15.1%	56	7.1%	36	4.6%	59	13.8%	423	6.8%
4 しない方がよい	40	4.1%	33	3.4%	126	13.5%	116	12.6%	136	29.0%	50	6.3%	142	18.3%	124	29.0%	767	12.3%
5 その他	9	0.9%	5	0.5%	17	1.8%	14	1.5%	9	1.9%	5	0.6%	15	1.9%	7	1.6%	81	1.3%
回答なし	4	0.4%	2	0.2%	1	0.1%	2	0.2%	0	0.0%	6	0.8%	3	0.4%	1	0.2%	19	0.3%
計	976		962		936		919		469		788		778		428		6256	

普通科推薦入学者の割合



【今回の調査結果】

普通科の推薦入学の在り方について尋ねた。

全体の傾向

- ・ 「現状のままでよい」と回答した比率が最も高く48.0%、以下、「割合を増やした方がよい」31.3%、「推薦入学はしない」12.3%、「割合を減らした方がよい」6.8%の順である。

調査対象者別(資料編 p.10～11)

- ・ 中学生についてみると、「割合を増やした方がよい」と回答した比率が最も高く、47.9%である。
- ・ 中学保護者についてみると、「現状のままでよい」と回答した比率が最も高く、46.6%である。
- ・ 高校生とその保護者についてみると「現状のままでよい」と回答した比率が最も高く、高校生66.5%、高校保護者55.5%である。
- ・ 中学教員、高校教員についてみると、「現状のままでよい」と回答した比率が最も高く、中学教員45.0%、高校教員42.3%である。また、他の調査対象者と比較すると、中学教員、高校教員において「推薦入学はしない」と回答した比率が高い。

地域別(資料編 p.10～11)

- ・ 調査対象者別の傾向と同様で地域別の大きな差異は見られない。

学区等別(資料編 p.11)

- ・ 調査対象者別の傾向と同様で学区等別の大きな差異は見られない。

【普通科推薦入学の対象者】

問5 全日制普通科(コースを含む)では、学力検査では評価できない多様な個性や能力・適性、
と

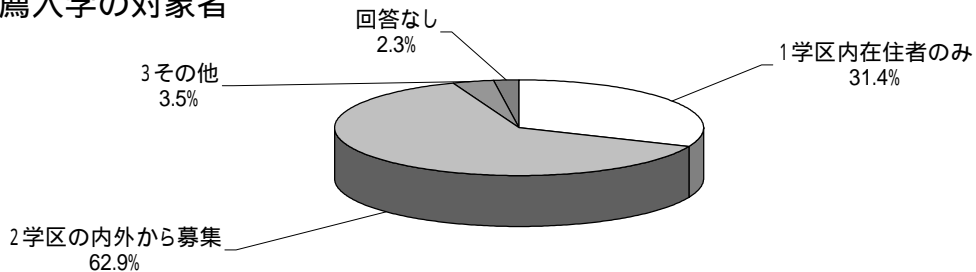
う考えますか。

(2) 推薦入学の対象者について (つぎの中から1つ選んでください。)

- 1 現状の学区内在住者のみでよい
- 2 学区の内外を問わず広く募集する方がよい
- 3 その他

選択肢	中2生徒		中3生徒		中2保護者		中3保護者		中学教員		高1生徒		高校保護者		高校教員		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 学区内在住者のみ	416	42.6%	353	36.7%	314	33.5%	271	29.5%	156	33.3%	177	22.5%	204	26.2%	71	16.6%	1962	31.4%
2 学区の内外から募集	538	55.1%	586	60.9%	558	59.6%	587	63.9%	259	55.2%	592	75.1%	500	64.3%	313	73.1%	3933	62.9%
3 その他	10	1.0%	16	1.7%	42	4.5%	41	4.5%	38	8.1%	5	0.6%	39	5.0%	25	5.8%	216	3.5%
回答なし	12	1.2%	7	0.7%	22	2.4%	20	2.2%	16	3.4%	14	1.8%	35	4.5%	19	4.4%	145	2.3%
計	976		962		936		919		469		788		778		428		6256	

普通科推薦入学の対象者



【今回の調査結果】

普通科の推薦入学の対象者について尋ねた。

全体の傾向

- ・ 「学区の内外から募集」と回答した比率が最も高く62.9%、次いで「学区内在住者のみ」31.4%である。

調査対象者別(資料編 p.12～13)

- ・ 中学生とその保護者についてみると、「学区の内外から募集」と回答した比率が最も高く、中学生58.0%、中学保護者61.7%である。
- ・ 高校生とその保護者についてみると「学区の内外から募集」と回答した比率が最も高く、高校生75.1%、高校保護者64.3%である。
- ・ 中学教員についてみると、「学区の内外から募集」と回答した比率が最も高く、55.2%である。
- ・ 高校教員についてみると、「学区の内外から募集」と回答した比率が最も高く、73.1%である。

地域別(資料編 p.12～13)

- ・ 全体の傾向と同様で地域別の大きな差異は見られない。

学区等別(資料編 p.13)

- ・ 全体の傾向及び調査対象者別と同様で、学区等別の大きな差異は見られない。

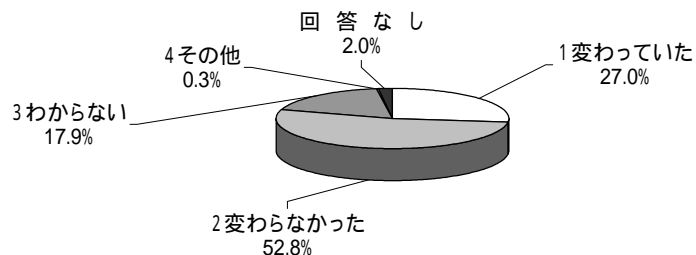
【制度変更による学校選択の変化】

問6 高校生とその保護者の方にお聞きします。もし、受験時に他学区の高校も受験することができたとしたら、学校選択が変わっていたと思いますか。
(つぎの中から1つ選んでください。)

- 1 変わっていたと思う
- 2 変わらなかったと思う
- 3 わからない
- 4 その他()

選択肢	高1生徒		高校保護者		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 変わっていた	198	25.1%	225	28.9%	423	27.0%
2 変わらなかった	390	49.5%	437	56.2%	827	52.8%
3 わからない	170	21.6%	110	14.1%	280	17.9%
4 その他	1	0.1%	3	0.4%	4	0.3%
回答なし	29	3.7%	3	0.4%	32	2.0%
計	788		778		1566	

制度変更による学校選択の変化



【今回の調査結果】

制度変更による学校選択の変化について尋ねた。

全体の傾向

- ・ 「変わらなかった」と回答した比率が最も高く52.8%、次いで「変わっていた」27.0%である。

調査対象者別(資料編 p.14)

- ・ 全体の傾向と同様で、全ての調査対象者において「変わらなかった」と回答した比率が最も高い。

学区等別(資料編 p.14)

- ・ 小学区において、「変わっていた」と回答した比率が、高校生30.5%、高校保護者39.1%と、他の学区等と比較して高い。

問1 中学校卒業後の進路希望

資料

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2生徒	1 公立高校進学	312	75.9%	129	77.7%	60	80.0%	68	68.7%	159	70.7%	728	74.6%
	2 私立高校進学	10	2.4%	4	2.4%	0	0.0%	5	5.1%	11	4.9%	30	3.1%
	3 専門学校等進学	8	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.0%	2	0.9%	14	1.4%
	4 就職	3	0.7%	0	0.0%	1	1.3%	1	1.0%	1	0.4%	6	0.6%
	5 未定	77	18.7%	33	19.9%	14	18.7%	21	21.2%	52	23.1%	197	20.2%
	回答なし	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
	計	411		166		75		99		225		976	
中3生徒	1 公立高校進学	366	90.4%	141	91.6%	61	87.1%	85	83.3%	204	88.3%	857	89.1%
	2 私立高校進学	20	4.9%	8	5.2%	2	2.9%	12	11.8%	16	6.9%	58	6.0%
	3 専門学校等進学	3	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%	2	0.9%	7	0.7%
	4 就職	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	0.4%	4	0.4%
	5 未定	12	3.0%	4	2.6%	7	10.0%	1	1.0%	8	3.5%	32	3.3%
	回答なし	2	0.5%	1	0.6%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	4	0.4%
	計	405		154		70		102		231		962	
中学生計	1 公立高校進学	678	83.1%	270	84.4%	121	83.4%	153	76.1%	363	79.6%	1585	81.8%
	2 私立高校進学	30	3.7%	12	3.8%	2	1.4%	17	8.5%	27	5.9%	88	4.5%
	3 専門学校等進学	11	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.0%	4	0.9%	21	1.1%
	4 就職	5	0.6%	0	0.0%	1	0.7%	2	1.0%	2	0.4%	10	0.5%
	5 未定	89	10.9%	37	11.6%	21	14.5%	22	10.9%	60	13.2%	229	11.8%
	回答なし	3	0.4%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	5	0.3%
	計	816		320		145		201		456		1938	

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2保護者	1 公立高校進学	353	90.5%	139	88.0%	62	84.9%	80	86.0%	191	86.0%	825	88.1%
	2 私立高校進学	7	1.8%	2	1.3%	0	0.0%	2	2.2%	2	0.9%	13	1.4%
	3 専門学校等進学	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	1	0.5%	2	0.2%
	4 就職	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	1	0.5%	2	0.2%
	5 未定	28	7.2%	15	9.5%	6	8.2%	10	10.8%	23	10.4%	82	8.8%
	回答なし	2	0.5%	2	1.3%	4	5.5%	0	0.0%	4	1.8%	12	1.3%
	計	390		158		73		93		222		936	
中3保護者	1 公立高校進学	343	92.5%	138	93.2%	63	91.3%	92	91.1%	210	91.3%	846	92.1%
	2 私立高校進学	11	3.0%	7	4.7%	2	2.9%	7	6.9%	8	3.5%	35	3.8%
	3 専門学校等進学	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	0.4%	3	0.3%
	4 就職	1	0.3%	1	0.7%	0	0.0%	1	1.0%	1	0.4%	4	0.4%
	5 未定	11	3.0%	2	1.4%	4	5.8%	0	0.0%	6	2.6%	23	2.5%
	回答なし	4	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.7%	8	0.9%
	計	371		148		69		101		230		919	
中学保護者計	1 公立高校進学	696	91.5%	277	90.5%	125	88.0%	172	88.7%	401	88.7%	1671	90.1%
	2 私立高校進学	18	2.4%	9	2.9%	2	1.4%	9	4.6%	10	2.2%	48	2.6%
	3 専門学校等進学	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	2	0.4%	5	0.3%
	4 就職	1	0.1%	1	0.3%	1	0.7%	1	0.5%	2	0.4%	6	0.3%
	5 未定	39	5.1%	17	5.6%	10	7.0%	10	5.2%	29	6.4%	105	5.7%
	回答なし	6	0.8%	2	0.7%	4	2.8%	0	0.0%	8	1.8%	20	1.1%
	計	761		306		142		194		452		1855	

問2 普通科の通学区域

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2生徒	1 現状でよい	130	31.6%	22	13.3%	10	13.3%	27	27.3%	35	15.6%	224	23.0%
	2 通学区域を広くする	79	19.2%	44	26.5%	23	30.7%	20	20.2%	40	17.8%	206	21.1%
	3 通学区域を設けない	136	33.1%	62	37.3%	36	48.0%	46	46.5%	85	37.8%	365	37.4%
	4 わからない	65	15.8%	36	21.7%	6	8.0%	6	6.1%	65	28.9%	178	18.2%
	5 その他	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
	回答なし	0	0.0%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
	計		411		166		75		99		225		976
中3生徒	1 現状でよい	93	23.0%	15	9.7%	5	7.1%	18	17.6%	36	15.6%	167	17.4%
	2 通学区域を広くする	86	21.2%	39	25.3%	15	21.4%	26	25.5%	53	22.9%	219	22.8%
	3 通学区域を設けない	146	36.0%	74	48.1%	23	32.9%	48	47.1%	101	43.7%	392	40.7%
	4 わからない	80	19.8%	26	16.9%	27	38.6%	10	9.8%	41	17.7%	184	19.1%
	5 その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計		405		154		70		102		231		962
中学生計	1 現状でよい	223	27.3%	37	11.6%	15	10.3%	45	22.4%	71	15.6%	391	20.2%
	2 通学区域を広くする	165	20.2%	83	25.9%	38	26.2%	46	22.9%	93	20.4%	425	21.9%
	3 通学区域を設けない	282	34.6%	136	42.5%	59	40.7%	94	46.8%	186	40.8%	757	39.1%
	4 わからない	145	17.8%	62	19.4%	33	22.8%	16	8.0%	106	23.2%	362	18.7%
	5 その他	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
	回答なし	0	0.0%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.1%
	計		816		320		145		201		456		1938

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2保護者	1 現状でよい	95	24.4%	18	11.4%	9	12.3%	19	20.4%	49	22.1%	190	20.3%
	2 通学区域を広くする	98	25.1%	39	24.7%	17	23.3%	28	30.1%	62	27.9%	244	26.1%
	3 通学区域を設けない	169	43.3%	94	59.5%	41	56.2%	41	44.1%	89	40.1%	434	46.4%
	4 わからない	26	6.7%	7	4.4%	5	6.8%	5	5.4%	22	9.9%	65	6.9%
	5 その他	2	0.5%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.3%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計		390		158		73		93		222		936
中3保護者	1 現状でよい	74	19.9%	11	7.4%	11	15.9%	9	8.9%	44	19.1%	149	16.2%
	2 通学区域を広くする	94	25.3%	42	28.4%	24	34.8%	22	21.8%	83	36.1%	265	28.8%
	3 通学区域を設けない	179	48.2%	87	58.8%	31	44.9%	67	66.3%	77	33.5%	441	48.0%
	4 わからない	23	6.2%	7	4.7%	3	4.3%	3	3.0%	24	10.4%	60	6.5%
	5 その他	1	0.3%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	4	0.4%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計		371		148		69		101		230		919
中学保護者計	1 現状でよい	169	22.2%	29	9.5%	20	14.1%	28	14.4%	93	20.6%	339	18.3%
	2 通学区域を広くする	192	25.2%	81	26.5%	41	28.9%	50	25.8%	145	32.1%	509	27.4%
	3 通学区域を設けない	348	45.7%	181	59.2%	72	50.7%	108	55.7%	166	36.7%	875	47.2%
	4 わからない	49	6.4%	14	4.6%	8	5.6%	8	4.1%	46	10.2%	125	6.7%
	5 その他	3	0.4%	1	0.3%	1	0.7%	0	0.0%	2	0.4%	7	0.4%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計		761		306		142		194		452		1855

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中学教員	1 現状でよい	46	22.8%	14	16.9%	8	34.8%	11	22.9%	34	30.1%	113	24.1%
	2 通学区域を広くする	88	43.6%	40	48.2%	11	47.8%	18	37.5%	53	46.9%	210	44.8%
	3 通学区域を設けない	62	30.7%	25	30.1%	2	8.7%	18	37.5%	22	19.5%	129	27.5%
	4 わからない	4	2.0%	4	4.8%	1	4.3%	1	2.1%	3	2.7%	13	2.8%
	5 その他	2	1.0%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%	1	0.9%	4	0.9%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	202		83		23		48		113		469	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高1生徒	1 現状でよい	90	13.5%	44	16.2%	46	11.6%	20	16.5%	110	14.0%
	2 通学区域を広くする	169	25.3%	80	29.4%	89	22.5%	24	19.8%	193	24.5%
	3 通学区域を設けない	301	45.1%	106	39.0%	195	49.4%	59	48.8%	360	45.7%
	4 わからない	101	15.1%	40	14.7%	61	15.4%	17	14.0%	118	15.0%
	5 その他	3	0.4%	1	0.4%	2	0.5%	0	0.0%	3	0.4%
	回答なし	3	0.4%	1	0.4%	2	0.5%	1	0.8%	4	0.5%
	計	667		272		395		121		788	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校保護者	1 現状でよい	94	14.3%	37	13.9%	57	14.6%	21	17.4%	115	14.8%
	2 通学区域を広くする	198	30.1%	73	27.4%	125	32.0%	36	29.8%	234	30.1%
	3 通学区域を設けない	308	46.9%	126	47.4%	182	46.5%	57	47.1%	365	46.9%
	4 わからない	50	7.6%	27	10.2%	23	5.9%	7	5.8%	57	7.3%
	5 その他	2	0.3%	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.3%
	回答なし	5	0.8%	1	0.4%	4	1.0%	0	0.0%	5	0.6%
	計	657		266		391		121		778	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校教員	1 現状でよい	74	21.1%	33	28.7%	41	17.4%	7	9.1%	81	18.9%
	2 通学区域を広くする	138	39.3%	50	43.5%	88	37.3%	30	39.0%	168	39.3%
	3 通学区域を設けない	122	34.8%	29	25.2%	93	39.4%	37	48.1%	159	37.1%
	4 わからない	11	3.1%	1	0.9%	10	4.2%	2	2.6%	13	3.0%
	5 その他	6	1.7%	2	1.7%	4	1.7%	1	1.3%	7	1.6%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	351		115		236		77		428	

	選択肢	小学区		中学区		複合学区		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2生徒	1 現状でよい	47	17.1%	157	26.8%	20	17.2%	224	23.0%
	2 通学区を広くする	61	22.2%	112	19.1%	33	28.4%	206	21.1%
	3 通学区を設けない	129	46.9%	197	33.7%	39	33.6%	365	37.4%
	4 わからない	38	13.8%	116	19.8%	24	20.7%	178	18.2%
	5 その他	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
	回答なし	0	0.0%	2	0.3%	0	0.0%	2	0.2%
	計	275		585		116		976	
中3生徒	1 現状でよい	35	13.4%	117	20.3%	15	12.1%	167	17.4%
	2 通学区を広くする	63	24.1%	115	19.9%	41	33.1%	219	22.8%
	3 通学区を設けない	100	38.3%	237	41.1%	55	44.4%	392	40.7%
	4 わからない	63	24.1%	108	18.7%	13	10.5%	184	19.1%
	5 その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	261		577		124		962	
中学生計	1 現状でよい	82	15.3%	274	23.6%	35	14.6%	391	20.2%
	2 通学区を広くする	124	23.1%	227	19.5%	74	30.8%	425	21.9%
	3 通学区を設けない	229	42.7%	434	37.3%	94	39.2%	757	39.1%
	4 わからない	101	18.8%	224	19.3%	37	15.4%	362	18.7%
	5 その他	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	1	0.1%
	回答なし	0	0.0%	2	0.2%	0	0.0%	2	0.1%
	計	536		1162		240		1938	

	選択肢	小学区		中学区		複合学区		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2保護者	1 現状でよい	45	17.4%	128	22.7%	17	14.9%	190	20.3%
	2 通学区を広くする	71	27.5%	148	26.2%	25	21.9%	244	26.1%
	3 通学区を設けない	125	48.4%	247	43.8%	62	54.4%	434	46.4%
	4 わからない	17	6.6%	39	6.9%	9	7.9%	65	6.9%
	5 その他	0	0.0%	2	0.4%	1	0.9%	3	0.3%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	258		564		114		936	
中3保護者	1 現状でよい	38	14.8%	96	17.9%	15	12.0%	149	16.2%
	2 通学区を広くする	75	29.2%	153	28.5%	37	29.6%	265	28.8%
	3 通学区を設けない	131	51.0%	255	47.5%	55	44.0%	441	48.0%
	4 わからない	12	4.7%	31	5.8%	17	13.6%	60	6.5%
	5 その他	1	0.4%	2	0.4%	1	0.8%	4	0.4%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	257		537		125		919	
中学保護者計	1 現状でよい	83	16.1%	224	20.3%	32	13.4%	339	18.3%
	2 通学区を広くする	146	28.3%	301	27.3%	62	25.9%	509	27.4%
	3 通学区を設けない	256	49.7%	502	45.6%	117	49.0%	875	47.2%
	4 わからない	29	5.6%	70	6.4%	26	10.9%	125	6.7%
	5 その他	1	0.2%	4	0.4%	2	0.8%	7	0.4%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	515		1101		239		1855	

	選択肢	小学区		中学区		複合学区		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中学教員	1 現状でよい	37	29.1%	63	21.5%	13	26.5%	113	24.1%
	2 通学区を広くする	57	44.9%	127	43.3%	26	53.1%	210	44.8%
	3 通学区を設けない	29	22.8%	92	31.4%	8	16.3%	129	27.5%
	4 わからない	3	2.4%	9	3.1%	1	2.0%	13	2.8%
	5 その他	1	0.8%	2	0.7%	1	2.0%	4	0.9%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	127		293		49		469	

問3 通学区域検討の視点

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓 東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2生徒	1 通学時間等の負担	61	14.8%	17	10.2%	7	9.3%	13	13.1%	33	14.7%	131	13.4%
	2 志願者の集中	102	24.8%	19	11.4%	11	14.7%	16	16.2%	31	13.8%	179	18.3%
	3 受検機会等の均等化	40	9.7%	29	17.5%	14	18.7%	24	24.2%	37	16.4%	144	14.8%
	4 幅広い選択肢の確保	163	39.7%	70	42.2%	35	46.7%	38	38.4%	81	36.0%	387	39.7%
	5 わからない	45	10.9%	29	17.5%	8	10.7%	8	8.1%	43	19.1%	133	13.6%
	6 その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	回答なし	0	0.0%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
	計	411		166		75		99		225		976	
中3生徒	1 通学時間等の負担	51	12.6%	13	8.4%	12	17.1%	9	8.8%	35	15.2%	120	12.5%
	2 志願者の集中	90	22.2%	20	13.0%	9	12.9%	16	15.7%	31	13.4%	166	17.3%
	3 受検機会等の均等化	66	16.3%	33	21.4%	17	24.3%	16	15.7%	33	14.3%	165	17.2%
	4 幅広い選択肢の確保	158	39.0%	71	46.1%	15	21.4%	52	51.0%	101	43.7%	397	41.3%
	5 わからない	39	9.6%	17	11.0%	17	24.3%	9	8.8%	31	13.4%	113	11.7%
	6 その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	回答なし	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
	計	405		154		70		102		231		962	
中学生計	1 通学時間等の負担	112	13.7%	30	9.4%	19	13.1%	22	10.9%	68	14.9%	251	13.0%
	2 志願者の集中	192	23.5%	39	12.2%	20	13.8%	32	15.9%	62	13.6%	345	17.8%
	3 受検機会等の均等化	106	13.0%	62	19.4%	31	21.4%	40	19.9%	70	15.4%	309	15.9%
	4 幅広い選択肢の確保	321	39.3%	141	44.1%	50	34.5%	90	44.8%	182	39.9%	784	40.5%
	5 わからない	84	10.3%	46	14.4%	25	17.2%	17	8.5%	74	16.2%	246	12.7%
	6 その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	回答なし	1	0.1%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%
	計	816		320		145		201		456		1938	

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓 東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2保護者	1 通学時間等の負担	53	13.6%	13	8.2%	8	11.0%	12	12.9%	36	16.2%	122	13.0%
	2 志願者の集中	63	16.2%	13	8.2%	9	12.3%	16	17.2%	28	12.6%	129	13.8%
	3 受検機会等の均等化	74	19.0%	33	20.9%	15	20.5%	17	18.3%	41	18.5%	180	19.2%
	4 幅広い選択肢の確保	189	48.5%	97	61.4%	36	49.3%	48	51.6%	112	50.5%	482	51.5%
	5 わからない	9	2.3%	2	1.3%	4	5.5%	0	0.0%	5	2.3%	20	2.1%
	6 その他	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
	計	390		158		73		93		222		936	
中3保護者	1 通学時間等の負担	32	8.6%	5	3.4%	13	18.8%	6	5.9%	27	11.7%	83	9.0%
	2 志願者の集中	55	14.8%	20	13.5%	9	13.0%	10	9.9%	32	13.9%	126	13.7%
	3 受検機会等の均等化	74	19.9%	42	28.4%	21	30.4%	23	22.8%	45	19.6%	205	22.3%
	4 幅広い選択肢の確保	198	53.4%	79	53.4%	25	36.2%	58	57.4%	116	50.4%	476	51.8%
	5 わからない	11	3.0%	1	0.7%	1	1.4%	3	3.0%	9	3.9%	25	2.7%
	6 その他	1	0.3%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	0.4%	2	0.2%
	計	371		148		69		101		230		919	
中学保護者計	1 通学時間等の負担	85	11.2%	18	5.9%	21	14.8%	18	9.3%	63	13.9%	205	11.1%
	2 志願者の集中	118	15.5%	33	10.8%	18	12.7%	26	13.4%	60	13.3%	255	13.7%
	3 受検機会等の均等化	148	19.4%	75	24.5%	36	25.4%	40	20.6%	86	19.0%	385	20.8%
	4 幅広い選択肢の確保	387	50.9%	176	57.5%	61	43.0%	106	54.6%	228	50.4%	958	51.6%
	5 わからない	20	2.6%	3	1.0%	5	3.5%	3	1.5%	14	3.1%	45	2.4%
	6 その他	3	0.4%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.2%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.5%	1	0.2%	3	0.2%
	計	761		306		142		194		452		1855	

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中学教員	1 通学時間等の負担	24	11.9%	2	2.4%	3	13.0%	3	6.3%	13	11.5%	45	9.6%
	2 志願者の集中	42	20.8%	7	8.4%	7	30.4%	9	18.8%	27	23.9%	92	19.6%
	3 受検機会等の均等化	43	21.3%	39	47.0%	5	21.7%	11	22.9%	25	22.1%	123	26.2%
	4 幅広い選択肢の確保	90	44.6%	34	41.0%	7	30.4%	24	50.0%	48	42.5%	203	43.3%
	5 わからない	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
	6 その他	0	0.0%	1	1.2%	1	4.3%	1	2.1%	0	0.0%	3	0.6%
	回答なし	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
計		202		83		23		48		113		469	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高1生徒	1 通学時間等の負担	93	13.9%	47	17.3%	46	11.6%	9	7.4%	102	12.9%
	2 志願者の集中	91	13.6%	43	15.8%	48	12.2%	18	14.9%	109	13.8%
	3 受検機会等の均等化	134	20.1%	44	16.2%	90	22.8%	32	26.4%	166	21.1%
	4 幅広い選択肢の確保	284	42.6%	112	41.2%	172	43.5%	53	43.8%	337	42.8%
	5 わからない	62	9.3%	24	8.8%	38	9.6%	8	6.6%	70	8.9%
	6 その他	1	0.1%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
	回答なし	2	0.3%	1	0.4%	1	0.3%	1	0.8%	3	0.4%
計		667		272		395		121		788	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校保護者	1 通学時間等の負担	66	10.0%	29	10.9%	37	9.5%	14	11.6%	80	10.3%
	2 志願者の集中	83	12.6%	28	10.5%	55	14.1%	11	9.1%	94	12.1%
	3 受検機会等の均等化	146	22.2%	64	24.1%	82	21.0%	28	23.1%	174	22.4%
	4 幅広い選択肢の確保	338	51.4%	134	50.4%	204	52.2%	67	55.4%	405	52.1%
	5 わからない	21	3.2%	11	4.1%	10	2.6%	1	0.8%	22	2.8%
	6 その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	回答なし	3	0.5%	0	0.0%	3	0.8%	0	0.0%	3	0.4%
計		657		266		391		121		778	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校教員	1 通学時間等の負担	41	11.7%	17	14.8%	24	10.2%	6	7.8%	47	11.0%
	2 志願者の集中	57	16.2%	22	19.1%	35	14.8%	9	11.7%	66	15.4%
	3 受検機会等の均等化	72	20.5%	15	13.0%	57	24.2%	16	20.8%	88	20.6%
	4 幅広い選択肢の確保	178	50.7%	58	50.4%	120	50.8%	45	58.4%	223	52.1%
	5 わからない	2	0.6%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.5%
	6 その他	1	0.3%	1	0.9%	0	0.0%	1	1.3%	2	0.5%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計		351		115		236		77		428	

問4 総合選抜制度

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2生徒	1 現状でよい	228	55.5%	64	38.6%	22	29.3%	66	66.7%	124	55.1%	504	51.6%
	2 廃止した方がよい	84	20.4%	46	27.7%	30	40.0%	15	15.2%	32	14.2%	207	21.2%
	3 わからない	95	23.1%	54	32.5%	22	29.3%	18	18.2%	67	29.8%	256	26.2%
	4 その他	3	0.7%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.4%	5	0.5%
	回答なし	1	0.2%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	4	0.4%
	計		411		166		75		99		225		976
中3生徒	1 現状でよい	214	52.8%	77	50.0%	20	28.6%	71	69.6%	110	47.6%	492	51.1%
	2 廃止した方がよい	101	24.9%	33	21.4%	19	27.1%	13	12.7%	54	23.4%	220	22.9%
	3 わからない	89	22.0%	44	28.6%	31	44.3%	17	16.7%	63	27.3%	244	25.4%
	4 その他	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.3%	4	0.4%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	0.4%	2	0.2%
	計		405		154		70		102		231		962
中学生計	1 現状でよい	442	54.2%	141	44.1%	42	29.0%	137	68.2%	234	51.3%	996	51.4%
	2 廃止した方がよい	185	22.7%	79	24.7%	49	33.8%	28	13.9%	86	18.9%	427	22.0%
	3 わからない	184	22.5%	98	30.6%	53	36.6%	35	17.4%	130	28.5%	500	25.8%
	4 その他	4	0.5%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	4	0.9%	9	0.5%
	回答なし	1	0.1%	2	0.6%	0	0.0%	1	0.5%	2	0.4%	6	0.3%
	計		816		320		145		201		456		1938

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2保護者	1 現状でよい	175	44.9%	51	32.3%	17	23.3%	43	46.2%	106	47.7%	392	41.9%
	2 廃止した方がよい	136	34.9%	74	46.8%	21	28.8%	32	34.4%	42	18.9%	305	32.6%
	3 わからない	73	18.7%	33	20.9%	33	45.2%	17	18.3%	71	32.0%	227	24.3%
	4 その他	6	1.5%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	3	1.4%	10	1.1%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	1.1%	0	0.0%	2	0.2%
	計		390		158		73		93		222		936
中3保護者	1 現状でよい	128	34.5%	41	27.7%	24	34.8%	33	32.7%	78	33.9%	304	33.1%
	2 廃止した方がよい	164	44.2%	70	47.3%	18	26.1%	35	34.7%	66	28.7%	353	38.4%
	3 わからない	73	19.7%	35	23.6%	26	37.7%	32	31.7%	79	34.3%	245	26.7%
	4 その他	5	1.3%	2	1.4%	0	0.0%	1	1.0%	6	2.6%	14	1.5%
	回答なし	1	0.3%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	1	0.4%	3	0.3%
	計		371		148		69		101		230		919
中学保護者計	1 現状でよい	303	39.8%	92	30.1%	41	28.9%	76	39.2%	184	40.7%	696	37.5%
	2 廃止した方がよい	300	39.4%	144	47.1%	39	27.5%	67	34.5%	108	23.9%	658	35.5%
	3 わからない	146	19.2%	68	22.2%	59	41.5%	49	25.3%	150	33.2%	472	25.4%
	4 その他	11	1.4%	2	0.7%	1	0.7%	1	0.5%	9	2.0%	24	1.3%
	回答なし	1	0.1%	0	0.0%	2	1.4%	1	0.5%	1	0.2%	5	0.3%
	計		761		306		142		194		452		1855

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中学教員	1 現状でよい	59	29.2%	26	31.3%	10	43.5%	20	41.7%	54	47.8%	169	36.0%
	2 廃止した方がよい	110	54.5%	44	53.0%	10	43.5%	24	50.0%	41	36.3%	229	48.8%
	3 わからない	26	12.9%	12	14.5%	3	13.0%	2	4.2%	15	13.3%	58	12.4%
	4 その他	5	2.5%	1	1.2%	0	0.0%	2	4.2%	3	2.7%	11	2.3%
	回答なし	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
	計	202		83		23		48		113		469	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高1生徒	1 現状でよい	277	41.5%	122	44.9%	155	39.2%	48	39.7%	325	41.2%
	2 廃止した方がよい	222	33.3%	66	24.3%	156	39.5%	37	30.6%	259	32.9%
	3 わからない	162	24.3%	83	30.5%	79	20.0%	34	28.1%	196	24.9%
	4 その他	3	0.4%	0	0.0%	3	0.8%	1	0.8%	4	0.5%
	回答なし	3	0.4%	1	0.4%	2	0.5%	1	0.8%	4	0.5%
	計	667		272		395		121		788	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校保護者	1 現状でよい	239	36.4%	115	43.2%	124	31.7%	37	30.6%	276	35.5%
	2 廃止した方がよい	245	37.3%	53	19.9%	192	49.1%	61	50.4%	306	39.3%
	3 わからない	164	25.0%	95	35.7%	69	17.6%	23	19.0%	187	24.0%
	4 その他	6	0.9%	1	0.4%	5	1.3%	0	0.0%	6	0.8%
	回答なし	3	0.5%	2	0.8%	1	0.3%	0	0.0%	3	0.4%
	計	657		266		391		121		778	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校教員	1 現状でよい	81	23.1%	33	28.7%	48	20.3%	8	10.4%	89	20.8%
	2 廃止した方がよい	222	63.2%	69	60.0%	153	64.8%	58	75.3%	280	65.4%
	3 わからない	42	12.0%	11	9.6%	31	13.1%	10	13.0%	52	12.1%
	4 その他	6	1.7%	2	1.7%	4	1.7%	1	1.3%	7	1.6%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	351		115		236		77		428	

	選択肢	小学区		中学区		複合学区		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2生徒	1 現状でよい	136	49.5%	314	53.7%	54	46.6%	504	51.6%
	2 廃止した方がよい	61	22.2%	117	20.0%	29	25.0%	207	21.2%
	3 わからない	78	28.4%	147	25.1%	31	26.7%	256	26.2%
	4 その他	0	0.0%	4	0.7%	1	0.9%	5	0.5%
	回答なし	0	0.0%	3	0.5%	1	0.9%	4	0.4%
	計	275		585		116		976	
中3生徒	1 現状でよい	130	49.8%	299	51.8%	63	50.8%	492	51.1%
	2 廃止した方がよい	53	20.3%	140	24.3%	27	21.8%	220	22.9%
	3 わからない	75	28.7%	135	23.4%	34	27.4%	244	25.4%
	4 その他	1	0.4%	3	0.5%	0	0.0%	4	0.4%
	回答なし	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
	計	261		577		124		962	
中学生計	1 現状でよい	266	49.6%	613	52.8%	117	48.8%	996	51.4%
	2 廃止した方がよい	114	21.3%	257	22.1%	56	23.3%	427	22.0%
	3 わからない	153	28.5%	282	24.3%	65	27.1%	500	25.8%
	4 その他	1	0.2%	7	0.6%	1	0.4%	9	0.5%
	回答なし	2	0.4%	3	0.3%	1	0.4%	6	0.3%
	計	536		1162		240		1938	

	選択肢	小学区		中学区		複合学区		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2保護者	1 現状でよい	100	38.8%	251	44.5%	41	36.0%	392	41.9%
	2 廃止した方がよい	74	28.7%	199	35.3%	32	28.1%	305	32.6%
	3 わからない	82	31.8%	106	18.8%	39	34.2%	227	24.3%
	4 その他	0	0.0%	8	1.4%	2	1.8%	10	1.1%
	回答なし	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
	計	258		564		114		936	
中3保護者	1 現状でよい	82	31.9%	180	33.5%	42	33.6%	304	33.1%
	2 廃止した方がよい	79	30.7%	241	44.9%	33	26.4%	353	38.4%
	3 わからない	91	35.4%	107	19.9%	47	37.6%	245	26.7%
	4 その他	3	1.2%	8	1.5%	3	2.4%	14	1.5%
	回答なし	2	0.8%	1	0.2%	0	0.0%	3	0.3%
	計	257		537		125		919	
中学保護者計	1 現状でよい	182	35.3%	431	39.1%	83	34.7%	696	37.5%
	2 廃止した方がよい	153	29.7%	440	40.0%	65	27.2%	658	35.5%
	3 わからない	173	33.6%	213	19.3%	86	36.0%	472	25.4%
	4 その他	3	0.6%	16	1.5%	5	2.1%	24	1.3%
	回答なし	4	0.8%	1	0.1%	0	0.0%	5	0.3%
	計	515		1101		239		1855	

	選択肢	小学区		中学区		複合学区		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中学教員	1 現状でよい	55	43.3%	92	31.4%	22	44.9%	169	36.0%
	2 廃止した方がよい	55	43.3%	155	52.9%	19	38.8%	229	48.8%
	3 わからない	14	11.0%	38	13.0%	6	12.2%	58	12.4%
	4 その他	3	2.4%	6	2.0%	2	4.1%	11	2.3%
	回答なし	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%	2	0.4%
	計	127		293		49		469	

問5(1) 普通科推薦入学者の割合

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2生徒	1 現状でよい	143	34.8%	60	36.1%	30	40.0%	30	30.3%	98	43.6%	361	37.0%
	2 増やした方がよい	218	53.0%	85	51.2%	33	44.0%	56	56.6%	106	47.1%	498	51.0%
	3 減らした方がよい	28	6.8%	8	4.8%	3	4.0%	10	10.1%	15	6.7%	64	6.6%
	4 しない方がよい	17	4.1%	10	6.0%	8	10.7%	2	2.0%	3	1.3%	40	4.1%
	5 その他	4	1.0%	1	0.6%	1	1.3%	1	1.0%	2	0.9%	9	0.9%
	回答なし	1	0.2%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	4	0.4%
	計		411		166		75		99		225		976
中3生徒	1 現状でよい	181	44.7%	74	48.1%	37	52.9%	45	44.1%	95	41.1%	432	44.9%
	2 増やした方がよい	179	44.2%	66	42.9%	23	32.9%	49	48.0%	114	49.4%	431	44.8%
	3 減らした方がよい	32	7.9%	6	3.9%	4	5.7%	4	3.9%	13	5.6%	59	6.1%
	4 しない方がよい	11	2.7%	7	4.5%	4	5.7%	2	2.0%	9	3.9%	33	3.4%
	5 その他	1	0.2%	1	0.6%	1	1.4%	2	2.0%	0	0.0%	5	0.5%
	回答なし	1	0.2%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
	計		405		154		70		102		231		962
中学生計	1 現状でよい	324	39.7%	134	41.9%	67	46.2%	75	37.3%	193	42.3%	793	40.9%
	2 増やした方がよい	397	48.7%	151	47.2%	56	38.6%	105	52.2%	220	48.2%	929	47.9%
	3 減らした方がよい	60	7.4%	14	4.4%	7	4.8%	14	7.0%	28	6.1%	123	6.3%
	4 しない方がよい	28	3.4%	17	5.3%	12	8.3%	4	2.0%	12	2.6%	73	3.8%
	5 その他	5	0.6%	2	0.6%	2	1.4%	3	1.5%	2	0.4%	14	0.7%
	回答なし	2	0.2%	2	0.6%	1	0.7%	0	0.0%	1	0.2%	6	0.3%
	計		816		320		145		201		456		1938

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2保護者	1 現状でよい	175	44.9%	75	47.5%	32	43.8%	38	40.9%	100	45.0%	420	44.9%
	2 増やした方がよい	134	34.4%	51	32.3%	24	32.9%	37	39.8%	81	36.5%	327	34.9%
	3 減らした方がよい	15	3.8%	6	3.8%	4	5.5%	6	6.5%	14	6.3%	45	4.8%
	4 しない方がよい	61	15.6%	22	13.9%	8	11.0%	12	12.9%	23	10.4%	126	13.5%
	5 その他	5	1.3%	4	2.5%	4	5.5%	0	0.0%	4	1.8%	17	1.8%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
	計		390		158		73		93		222		936
中3保護者	1 現状でよい	163	43.9%	73	49.3%	37	53.6%	52	51.5%	119	51.7%	444	48.3%
	2 増やした方がよい	129	34.8%	53	35.8%	16	23.2%	39	38.6%	73	31.7%	310	33.7%
	3 減らした方がよい	16	4.3%	3	2.0%	4	5.8%	1	1.0%	9	3.9%	33	3.6%
	4 しない方がよい	56	15.1%	18	12.2%	9	13.0%	8	7.9%	25	10.9%	116	12.6%
	5 その他	6	1.6%	1	0.7%	2	2.9%	1	1.0%	4	1.7%	14	1.5%
	回答なし	1	0.3%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%
	計		371		148		69		101		230		919
中学保護者計	1 現状でよい	338	44.4%	148	48.4%	69	48.6%	90	46.4%	219	48.5%	864	46.6%
	2 増やした方がよい	263	34.6%	104	34.0%	40	28.2%	76	39.2%	154	34.1%	637	34.3%
	3 減らした方がよい	31	4.1%	9	2.9%	8	5.6%	7	3.6%	23	5.1%	78	4.2%
	4 しない方がよい	117	15.4%	40	13.1%	17	12.0%	20	10.3%	48	10.6%	242	13.0%
	5 その他	11	1.4%	5	1.6%	6	4.2%	1	0.5%	8	1.8%	31	1.7%
	回答なし	1	0.1%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%
	計		761		306		142		194		452		1855

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中学教員	1 現状でよい	82	40.6%	40	48.2%	11	47.8%	17	35.4%	61	54.0%	211	45.0%
	2 増やした方がよい	19	9.4%	6	7.2%	3	13.0%	6	12.5%	8	7.1%	42	9.0%
	3 減らした方がよい	39	19.3%	8	9.6%	1	4.3%	8	16.7%	15	13.3%	71	15.1%
	4 しない方がよい	59	29.2%	25	30.1%	7	30.4%	17	35.4%	28	24.8%	136	29.0%
	5 その他	3	1.5%	4	4.8%	1	4.3%	0	0.0%	1	0.9%	9	1.9%
	回答なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計		202		83		23		48		113		469

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高1生徒	1 現状でよい	432	64.8%	160	58.8%	272	68.9%	92	76.0%	524	66.5%
	2 増やした方がよい	134	20.1%	70	25.7%	64	16.2%	13	10.7%	147	18.7%
	3 減らした方がよい	49	7.3%	18	6.6%	31	7.8%	7	5.8%	56	7.1%
	4 しない方がよい	42	6.3%	17	6.3%	25	6.3%	8	6.6%	50	6.3%
	5 その他	5	0.7%	3	1.1%	2	0.5%	0	0.0%	5	0.6%
	回答なし	5	0.7%	4	1.5%	1	0.3%	1	0.8%	6	0.8%
	計		667		272		395		121		788

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校保護者	1 現状でよい	367	55.9%	145	54.5%	222	56.8%	65	53.7%	432	55.5%
	2 増やした方がよい	131	19.9%	67	25.2%	64	16.4%	19	15.7%	150	19.3%
	3 減らした方がよい	31	4.7%	12	4.5%	19	4.9%	5	4.1%	36	4.6%
	4 しない方がよい	111	16.9%	33	12.4%	78	19.9%	31	25.6%	142	18.3%
	5 その他	14	2.1%	7	2.6%	7	1.8%	1	0.8%	15	1.9%
	回答なし	3	0.5%	2	0.8%	1	0.3%	0	0.0%	3	0.4%
	計		657		266		391		121		778

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校教員	1 現状でよい	150	42.7%	58	50.4%	92	39.0%	31	40.3%	181	42.3%
	2 増やした方がよい	49	14.0%	19	16.5%	30	12.7%	7	9.1%	56	13.1%
	3 減らした方がよい	50	14.2%	16	13.9%	34	14.4%	9	11.7%	59	13.8%
	4 しない方がよい	98	27.9%	22	19.1%	76	32.2%	26	33.8%	124	29.0%
	5 その他	3	0.9%	0	0.0%	3	1.3%	4	5.2%	7	1.6%
	回答なし	1	0.3%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
	計		351		115		236		77		428

問5(2) 普通科推薦入学の対象者

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2生徒	1 学区内在住者のみ	208	50.6%	47	28.3%	31	41.3%	40	40.4%	90	40.0%	416	42.6%
	2 学区の内外から	198	48.2%	110	66.3%	42	56.0%	56	56.6%	132	58.7%	538	55.1%
	3 その他	3	0.7%	3	1.8%	2	2.7%	2	2.0%	0	0.0%	10	1.0%
	回答なし	2	0.5%	6	3.6%	0	0.0%	1	1.0%	3	1.3%	12	1.2%
	計	411		166		75		99		225		976	
中3生徒	1 学区内在住者のみ	162	40.0%	36	23.4%	22	31.4%	43	42.2%	90	39.0%	353	36.7%
	2 学区の内外から	235	58.0%	116	75.3%	43	61.4%	55	53.9%	137	59.3%	586	60.9%
	3 その他	4	1.0%	2	1.3%	2	2.9%	4	3.9%	4	1.7%	16	1.7%
	回答なし	4	1.0%	0	0.0%	3	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	7	0.7%
	計	405		154		70		102		231		962	
中学生計	1 学区内在住者のみ	370	45.3%	83	25.9%	53	36.6%	83	41.3%	180	39.5%	769	39.7%
	2 学区の内外から	433	53.1%	226	70.6%	85	58.6%	111	55.2%	269	59.0%	1124	58.0%
	3 その他	7	0.9%	5	1.6%	4	2.8%	6	3.0%	4	0.9%	26	1.3%
	回答なし	6	0.7%	6	1.9%	3	2.1%	1	0.5%	3	0.7%	19	1.0%
	計	816		320		145		201		456		1938	

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中2保護者	1 学区内在住者のみ	135	34.6%	41	25.9%	19	26.0%	32	34.4%	87	39.2%	314	33.5%
	2 学区の内外から	230	59.0%	107	67.7%	47	64.4%	54	58.1%	120	54.1%	558	59.6%
	3 その他	15	3.8%	6	3.8%	4	5.5%	6	6.5%	11	5.0%	42	4.5%
	回答なし	10	2.6%	4	2.5%	3	4.1%	1	1.1%	4	1.8%	22	2.4%
	計	390		158		73		93		222		936	
中3保護者	1 学区内在住者のみ	103	27.8%	28	18.9%	21	30.4%	30	29.7%	89	38.7%	271	29.5%
	2 学区の内外から	237	63.9%	113	76.4%	42	60.9%	67	66.3%	128	55.7%	587	63.9%
	3 その他	19	5.1%	5	3.4%	5	7.2%	3	3.0%	9	3.9%	41	4.5%
	回答なし	12	3.2%	2	1.4%	1	1.4%	1	1.0%	4	1.7%	20	2.2%
	計	371		148		69		101		230		919	
中学保護者計	1 学区内在住者のみ	238	31.3%	69	22.5%	40	28.2%	62	32.0%	176	38.9%	585	31.5%
	2 学区の内外から	467	61.4%	220	71.9%	89	62.7%	121	62.4%	248	54.9%	1145	61.7%
	3 その他	34	4.5%	11	3.6%	9	6.3%	9	4.6%	20	4.4%	83	4.5%
	回答なし	22	2.9%	6	2.0%	4	2.8%	2	1.0%	8	1.8%	42	2.3%
	計	761		306		142		194		452		1855	

	選択肢	峡中地域		峡東地域		峡南地域		峡北地域		富士北麓・東部地域		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
中学 教員	1 学区内在住者のみ	67	33.2%	20	24.1%	7	30.4%	16	33.3%	46	40.7%	156	33.3%
	2 学区の内外から	113	55.9%	48	57.8%	12	52.2%	28	58.3%	58	51.3%	259	55.2%
	3 その他	14	6.9%	10	12.0%	3	13.0%	4	8.3%	7	6.2%	38	8.1%
	回答なし	8	4.0%	5	6.0%	1	4.3%	0	0.0%	2	1.8%	16	3.4%
	計	202		83		23		48		113		469	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高1 生徒	1 学区内在住者のみ	155	23.2%	76	27.9%	79	20.0%	22	18.2%	177	22.5%
	2 学区の内外から	496	74.4%	187	68.8%	309	78.2%	96	79.3%	592	75.1%
	3 その他	3	0.4%	1	0.4%	2	0.5%	2	1.7%	5	0.6%
	回答なし	13	1.9%	8	2.9%	5	1.3%	1	0.8%	14	1.8%
	計	667		272		395		121		788	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校 保護者	1 学区内在住者のみ	167	25.4%	75	28.2%	92	23.5%	37	30.6%	204	26.2%
	2 学区の内外から	428	65.1%	171	64.3%	257	65.7%	72	59.5%	500	64.3%
	3 その他	32	4.9%	12	4.5%	20	5.1%	7	5.8%	39	5.0%
	回答なし	30	4.6%	8	3.0%	22	5.6%	5	4.1%	35	4.5%
	計	657		266		391		121		778	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校 教員	1 学区内在住者のみ	64	18.2%	21	18.3%	43	18.2%	7	9.1%	71	16.6%
	2 学区の内外から	252	71.8%	85	73.9%	167	70.8%	61	79.2%	313	73.1%
	3 その他	18	5.1%	5	4.3%	13	5.5%	7	9.1%	25	5.8%
	回答なし	17	4.8%	4	3.5%	13	5.5%	2	2.6%	19	4.4%
	計	351		115		236		77		428	

問6 制度変更による学校選択の変化

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高1生徒	1 変わっていた	175	26.2%	83	30.5%	92	23.3%	23	19.0%	198	25.1%
	2 変わらなかった	313	46.9%	108	39.7%	205	51.9%	77	63.6%	390	49.5%
	3 わからない	149	22.3%	57	21.0%	92	23.3%	21	17.4%	170	21.6%
	4 その他	1	0.1%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
	回答なし	29	4.3%	23	8.5%	6	1.5%	0	0.0%	29	3.7%
	計	667		272		395		121		788	

	選択肢	普通科		小学区		中学区		単位制普通科		合計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
高校保護者	1 変わっていた	203	30.9%	104	39.1%	99	25.3%	22	18.2%	225	28.9%
	2 変わらなかった	356	54.2%	118	44.4%	238	60.9%	81	66.9%	437	56.2%
	3 わからない	94	14.3%	42	15.8%	52	13.3%	16	13.2%	110	14.1%
	4 その他	3	0.5%	1	0.4%	2	0.5%	0	0.0%	3	0.4%
	回答なし	1	0.2%	1	0.4%	0	0.0%	2	1.7%	3	0.4%
	計	657		266		391		121		778	

資料

平成11年度 高校改革アンケート

問14 本県では普通科の通学区域について、8つの小学区(1つの学区に1つの学校がある学区)と4つの中学区(1つの学区に2～6の学校がある学区)に分けています(なお、1つの学区に7以上の学校がある学区は大学区と呼びます)。この学区制についてどう考えますか。

- 1 通学の便などの条件により、小学区の地域と中学区の地域の両方がある現状でよい
- 2 選べる学校が増えるよう、通学区を広げた中学区の方がよい
- 3 中学区よりさらに選べる高校が多い、大学区の方がよい
- 4 地域の学校に進学できる小学区の方がよい
- 5 その他()
- 6 わからない

選 択 肢	中学生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		総 合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	705	22.3%	747	26.3%	318	26.1%	357	30.7%	2,127	25.3%	296	31.5%	72	32.7%	2,495	26.1%
2 中学区の方がよい	846	26.7%	855	30.1%	285	23.4%	330	28.4%	2,316	27.6%	299	31.8%	57	25.9%	2,672	28.0%
3 大学区の方がよい	659	20.8%	665	23.4%	278	22.8%	254	21.8%	1,856	22.1%	227	24.2%	58	26.4%	2,141	22.4%
4 小学区の方がよい	172	5.4%	186	6.6%	42	3.4%	64	5.5%	464	5.5%	39	4.2%	15	6.8%	518	5.4%
5 その他	16	0.5%	26	0.9%	14	1.1%	14	1.2%	70	0.8%	14	1.5%	3	1.4%	87	0.9%
6 わからない	770	24.3%	360	12.7%	283	23.2%	145	12.5%	1,558	18.6%	64	6.8%	15	6.8%	1,637	17.1%
合 計	3,168		2,839		1,220		1,164		8,391		939		220		9,550	

平成12年度 高校改革アンケート

問9 本県では普通科の通学区域について、8つの小学区(1つの学区に1つの学校がある学区)と4つの中学区(1つの学区に2～6の学校がある学区)に分けています(なお、1つの学区に7以上の学校がある学区は大学区と呼びます)。この学区制についてどう考えますか。(つぎの中から1つ選んでください。)

- 1 通学の便などの条件により、小学区の地域と中学区の地域の両方がある現状でよい
- 2 選べる学校が増えるよう、通学区を広げた中学区の方がよい
- 3 中学区よりさらに選べる高校が多い、大学区の方がよい
- 4 地域の学校に進学できる小学区の方がよい
- 5 その他()

選 択 肢	中学2・3生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		総 合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	654	32.5%	575	30.6%	269	30.8%	230	28.2%	1,728	31.0%	75	30.0%	151	32.4%	1,954	31.0%
2 中学区の方がよい	658	32.7%	646	34.4%	291	33.4%	262	32.1%	1,857	33.3%	103	41.2%	155	33.3%	2,115	33.6%
3 大学区の方がよい	527	26.2%	470	25.0%	245	28.1%	252	30.8%	1,494	26.8%	46	18.4%	116	24.9%	1,656	26.3%
4 小学区の方がよい	147	7.3%	159	8.5%	44	5.0%	59	7.2%	409	7.3%	24	9.6%	33	7.1%	466	7.4%
5 その他	27	1.3%	29	1.5%	23	2.6%	14	1.7%	93	1.7%	2	0.8%	11	2.4%	106	1.7%
合 計	2,013		1,879		872		817		5,581		250		466		6,297	

平成13年度 高校改革アンケート

問10 本県では普通科の通学区域について、7つの小学区(1つの学区に1つの学校がある学区)と4つの中学区(1つの学区に2～6の学校がある学区)に分けています(なお、1つの学区に7以上の学校がある学区は大学区と呼びます)。この学区制についてどう考えますか。(つぎの中から1つ選んでください。)

現 状[普通科の通学区域]

小学区:日野春学区、葦崎学区、市川学区、身延学区、石和学区、上野原学区、都留学区

中学区:甲府学区、小笠原学区、東山梨学区、吉田学区

大学区:本県では設定していません

- 1 通学の便などの条件により、小学区の地域と中学区の地域の両方がある現状でよい
- 2 選べる学校が増えるよう、通学区を広げた中学区の方がよい
- 3 中学区よりさらに選べる高校が多い、大学区の方がよい
- 4 地域の学校に進学できる小学区の方がよい
- 5 その他()

選 択 肢	中学2・3生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		総 合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	584	29.8%	585	32.4%	295	36.4%	267	33.6%	1,731	32.3%	67	28.4%	131	28.5%	1,929	31.8%
2 中学区の方がよい	706	36.1%	639	35.4%	271	33.5%	292	36.8%	1,908	35.6%	97	41.1%	159	34.6%	2,164	35.7%
3 大学区の方がよい	471	24.1%	365	20.2%	196	24.2%	158	19.9%	1,190	22.2%	47	19.9%	118	25.7%	1,355	22.4%
4 小学区の方がよい	143	7.3%	124	6.9%	27	3.3%	46	5.8%	340	6.3%	12	5.1%	28	6.1%	380	6.3%
5 その他	25	1.3%	24	1.3%	12	1.5%	15	1.9%	76	1.4%	8	3.4%	16	3.5%	100	1.7%
回答なし	29	1.5%	66	3.7%	9	1.1%	16	2.0%	120	2.2%	5	2.1%	7	1.5%	132	2.2%
合 計	1,958		1,803		810		794		5,365		236		459		6,060	

平成14年度 高校改革アンケート

問10 本県では普通科の通学区域について、7つの小学区(1つの学区に1つの学校がある学区)と4つの中学区(1つの学区に2～6の学校がある学区)に分けています(なお、1つの学区に7以上の学校がある学区は大学区と呼びます)。この学区制についてどう考えますか。(つぎの中から1つ選んでください。)

- 1 通学の便などの条件により、小学区の地域と中学区の地域の両方がある現状でよい
- 2 選べる学校が増えるよう、通学区を広げた中学区の方がよい
- 3 中学区よりさらに選べる高校が多い、大学区の方がよい
- 4 地域の学校に進学できる小学区の方がよい
- 5 県内のどこの高校にも進学できるよう、通学区域を設けない方がよい
- 6 その他()

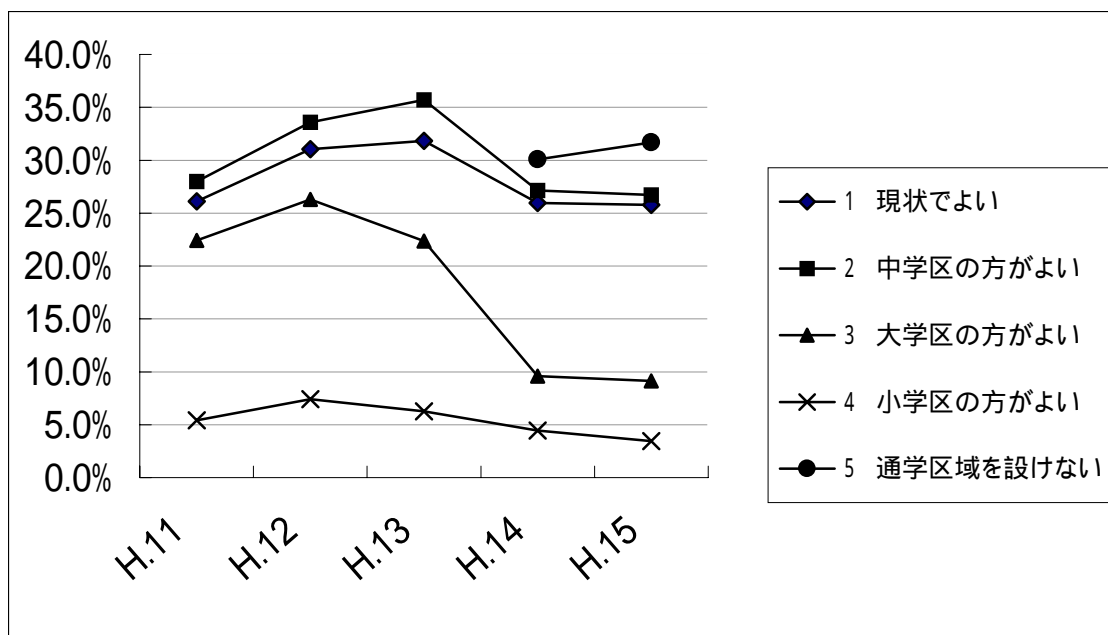
選 択 肢	中学2・3生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	572	29.6%	382	22.3%	222	27.6%	164	21.3%	1,340	25.7%	79	32.4%	121	26.2%	1,540	26.0%
2 中学区の方がよい	551	28.5%	454	26.5%	202	25.2%	185	24.0%	1,392	26.6%	77	31.6%	140	30.3%	1,609	27.1%
3 大学区の方がよい	204	10.5%	131	7.6%	91	11.3%	71	9.2%	497	9.5%	27	11.1%	45	9.7%	569	9.6%
4 小学区の方がよい	98	5.1%	76	4.4%	23	2.9%	27	3.5%	224	4.3%	9	3.7%	30	6.5%	263	4.4%
5 通学区域を設けない	460	23.8%	610	35.5%	247	30.8%	298	38.7%	1,615	30.9%	46	18.9%	122	26.4%	1,783	30.1%
6 その他	19	1.0%	8	0.5%	8	1.0%	2	0.3%	37	0.7%	3	1.2%	1	0.2%	41	0.7%
回答なし	31	1.6%	55	3.2%	10	1.2%	23	3.0%	119	2.3%	3	1.2%	3	0.6%	125	2.1%
合 計	1,935		1,716		803		770		5,224		244		462		5,930	

平成15年度 高校改革アンケート

本県では普通科の通学区域について、7つの小学区(1つの学区に1つの学校がある学区)と4つの中学区(1つの学区に2～6の学校がある学区)に分けています(なお、1つの学区に7以上の学校がある学区は大学区と呼びます)。この学区制についてどう考えますか。(つぎの中から1つ選んでください。)

- 1 通学の便などの条件により、小学区の地域と中学区の地域の両方がある現状でよい
- 2 選べる学校が増えるよう、通学区を広げた中学区の方がよい
- 3 中学区よりさらに選べる高校が多い、大学区の方がよい
- 4 地域の学校に進学できる小学区の方がよい
- 5 県内のどこの高校にも進学できるよう、通学区域を設けない方がよい
- 6 その他()

選 択 肢	中学2・3生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	548	29.1%	395	22.2%	213	25.7%	195	23.9%	1,351	25.5%	78	32.6%	118	25.8%	1,547	25.8%
2 中学区の方がよい	493	26.1%	494	27.8%	213	25.7%	206	25.2%	1,406	26.5%	72	30.1%	126	27.5%	1,604	26.7%
3 大学区の方がよい	160	8.5%	138	7.8%	107	12.9%	67	8.2%	472	8.9%	25	10.5%	51	11.1%	548	9.1%
4 小学区の方がよい	74	3.9%	68	3.8%	27	3.3%	20	2.5%	189	3.6%	7	2.9%	11	2.4%	207	3.4%
5 通学区域を設けなし	530	28.1%	615	34.6%	253	30.6%	309	37.9%	1,707	32.2%	50	20.9%	145	31.7%	1,902	31.7%
6 その他	20	1.1%	15	0.8%	7	0.8%	9	1.1%	51	1.0%	4	1.7%	3	0.7%	58	1.0%
回答なし	61	3.2%	51	2.9%	8	1.0%	10	1.2%	130	2.5%	3	1.3%	4	0.9%	137	2.3%
合 計	1,886		1,776		828		816		5,306		239		458		6,003	



平成11年度 高校改革アンケート

問15 現在中学区である甲府、小笠原、東山梨、吉田学区では総合選抜制度(合格者をまず決定し、各学校への配分は、受験者の希望に基づき通学距離などの基準により決定する方法)を行っていますが、どう考えますか。

1 現状でよい
2 改善した方がよい
3 廃止した方がよい
4 わからない

選 択 肢	中学生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		総 合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	1,557	49.1%	1,557	54.8%	639	52.4%	687	59.0%	4,440	52.9%	520	55.4%	115	52.3%	5,075	53.1%
2 改善した方がよい	183	5.8%	276	9.7%	89	7.3%	83	7.1%	631	7.5%	73	7.8%	14	6.4%	718	7.5%
3 廃止した方がよい	512	16.2%	450	15.9%	202	16.6%	197	16.9%	1,361	16.2%	243	25.9%	73	33.2%	1,677	17.6%
4 わからない	916	28.9%	556	19.6%	290	23.8%	197	16.9%	1,959	23.3%	103	11.0%	18	8.2%	2,080	21.8%
合 計	3,168		2,839		1,220		1,164		8,391		939		220		9,550	

平成12年度 高校改革アンケート

問10 現在中学区である甲府、小笠原、東山梨、吉田学区では総合選抜制度(合格者をまず決定し、各学校への配分は、受験者の希望に基づき通学距離などの基準により決定する方法)を行っていますが、どう考えますか。
(つぎの中から1つ選んでください。)

1 現状のままでよい
2 制度はそのままでよいが、改善した方がよい
3 廃止した方がよい
4 わからない

選 択 肢	中学2・3生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		総 合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	404	21.1%	548	28.9%	112	13.9%	124	16.1%	1,188	22.1%	21	9.1%	11	3.0%	1,220	20.4%
2 改善した方がよい	667	34.8%	681	36.0%	318	39.5%	361	46.8%	2,027	37.6%	98	42.4%	97	26.6%	2,222	37.2%
3 廃止した方がよい	743	38.8%	319	16.8%	336	41.7%	216	28.0%	1,614	30.0%	70	30.3%	143	39.3%	1,827	30.6%
4 わからない	101	5.3%	346	18.3%	39	4.8%	70	9.1%	556	10.3%	42	18.2%	113	31.0%	711	11.9%
合 計	1,915		1,894		805		771		5,385		231		364		5,980	

平成13年度 高校改革アンケート

問11 現在中学区である甲府、小笠原、東山梨、吉田学区では総合選抜制度を行っていますが、どう考えますか。
(つぎの中から1つ選んでください。)

1 現状のままでよい
2 制度はそのままでよいが、改善した方がよい()
3 廃止した方がよい
4 わからない

選 択 肢	中学2・3生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		総 合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	872	44.5%	719	39.9%	372	45.9%	296	37.3%	2,259	42.1%	101	42.8%	154	33.6%	2,514	41.5%
2 改善した方がよい	175	8.9%	346	19.2%	91	11.2%	158	19.9%	770	14.4%	43	18.2%	60	13.1%	873	14.4%
3 廃止した方がよい	358	18.3%	348	19.3%	150	18.5%	215	27.1%	1,071	20.0%	70	29.7%	198	43.1%	1,339	22.1%
4 わからない	530	27.1%	338	18.7%	190	23.5%	111	14.0%	1,169	21.8%	17	7.2%	43	9.4%	1,229	20.3%
回答なし	23	1.2%	52	2.9%	7	0.9%	14	1.8%	96	1.8%	5	2.1%	4	0.9%	105	1.7%
合 計	1,958		1,803		810		794		5,365		236		459		6,060	

平成14年度 高校改革アンケート

問11 現在中学区である甲府、小笠原、東山梨、吉田学区では総合選抜制度を行っていますが、どう考えますか。
(つぎの中から1つを選んでください。)

- 1 現状のままでよい
- 2 廃止した方がよい
- 3 わからない
- 4 その他()

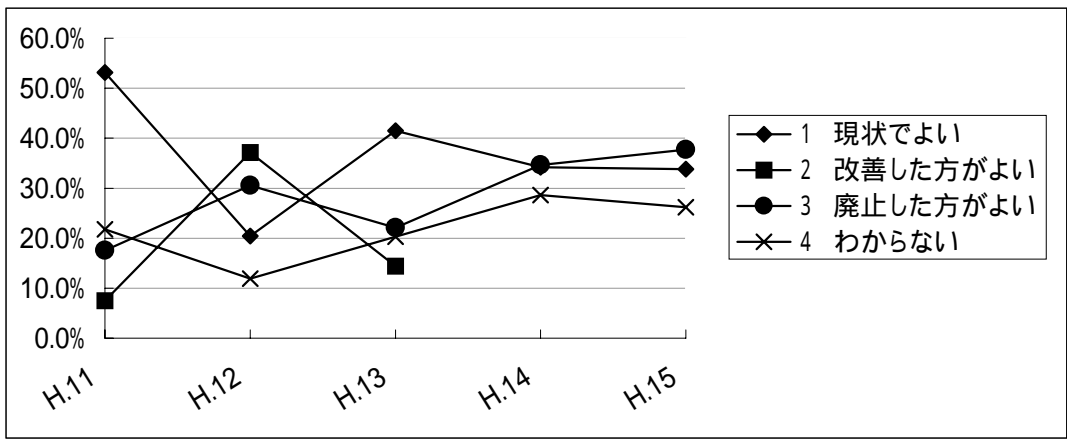
選 択 肢	中学2・3生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	802	41.4%	474	27.6%	301	37.5%	231	30.0%	1,808	34.6%	82	33.6%	138	29.9%	2,028	34.2%
2 廃止した方がよい	414	21.4%	710	41.4%	231	28.8%	325	42.2%	1,680	32.2%	115	47.1%	260	56.3%	2,055	34.7%
3 わからない	682	35.2%	473	27.6%	259	32.3%	189	24.5%	1,603	30.7%	38	15.6%	55	11.9%	1,696	28.6%
4 その他	6	0.3%	11	0.6%	5	0.6%	7	0.9%	29	0.6%	4	1.6%	5	1.1%	38	0.6%
回答なし	31	1.6%	48	2.8%	7	0.9%	18	2.3%	104	2.0%	5	2.0%	4	0.9%	113	1.9%
合 計	1,935		1,716		803		770		5,224		244		462		5,930	

平成15年度 高校改革アンケート

問11 現在中学区である甲府、小笠原、東山梨、吉田学区では総合選抜制度を行っていますが、どう考えますか。
(つぎの中から1つを選んでください。)

- 1 現状のままでよい
- 2 廃止した方がよい
- 3 わからない
- 4 その他()

選 択 肢	中学2・3生徒		中学保護者		高1生徒		高1保護者		合 計		中学教員		高校教員		合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現状でよい	716	38.0%	491	27.6%	345	41.7%	278	34.1%	1,830	34.5%	82	34.3%	118	25.8%	2,030	33.8%
2 廃止した方がよい	503	26.7%	760	42.8%	246	29.7%	367	45.0%	1,876	35.4%	113	47.3%	275	60.0%	2,264	37.7%
3 わからない	612	32.4%	486	27.4%	227	27.4%	153	18.8%	1,478	27.9%	41	17.2%	54	11.8%	1,573	26.2%
4 その他	6	0.3%	14	0.8%	3	0.4%	7	0.9%	30	0.6%	1	0.4%	8	1.7%	39	0.6%
回答なし	49	2.6%	25	1.4%	7	0.8%	11	1.3%	92	1.7%	2	0.8%	3	0.7%	97	1.6%
合 計	1,886		1,776		828		816		5,306		239		458		6,003	



資料

通学区域等に関する県民フォーラムの状況

- 1 開設期間 平成16年11月2日(火)～平成17年4月19日(火)
- 2 周知方法
 - ・ 県内公立高等学校及び中学校に開設及び意見募集について通知。
 - ・ 県ホームページのトップページにおいて「注目情報」として掲示。
 - ・ 新聞等報道機関にホームページアドレスの掲載を依頼。
 - ・ 県民情報センターや図書館等の公共施設でのパンフレットの配布。
 - ・ 各種会議等における周知。
- 3 投稿件数 平成17年4月19日現在205件(HP202件、FAX2件、メール1件)
- 4 意見内容(意見内容が複数の項目にわたる場合はそれぞれにカウント)
 - ・ 総合選抜制度について
 - 廃止を求める意見 52件
 - 存続を求める意見 6件
 - ・ 通学区域について
 - 拡大・廃止を求める意見 33件
 - 現状維持を求める意見 2件
 - ・ 不本意入学に関する意見 13件
 - ・ 序列化に関する意見 9件
 - ・ 導入時期に関する意見 6件
 - ・ 質問、回答 6件
 - ・ その他 81件
 - 審議会に関する意見等
 - 生徒の流動化に関する意見
 - 入学者選抜制度に関する意見
 - 制服に関する意見等
 - 高校改革に関する意見
 - 特色に関する意見
 - 要望 など
 - ・ 投稿者削除等 19件
- 5 県民フォーラム・アドレス
http://www.pref.yamanashi.jp/cgi-bin/multi_bbs.cgi?bbsid=21